

JPTA NEWS 特別編集



先達に学ぶ 理学療法士のセカンドキャリア

JPTA NEWS「生涯現役」総集編

2019年6月～2026年6月

定年後の働き方、役割、社会との関わり方を考えるために



公益社団法人

日本理学療法士協会

Japanese Physical Therapy Association



はじめに

会報誌「JPTA NEWS」では、2019 年 6 月号から「生涯現役」のコーナーを通じて、わが国の理学療法の発展を支え、長年にわたり臨床・教育・研究・行政・地域活動などさまざまな分野で歩みを重ねてこられた先達に、その経験や想い、現在の活動、そして後進へのメッセージを寄せていただけてきました。

近年、本会には、定年退職を迎える、あるいは見据える会員から、「退職後の理学療法士としての働き方について、協会として情報を整理し紹介してほしい」「これまで培ってきた知識や経験を、次のステージでどのように生かしていけばよいか考える材料がほしい」といった声が寄せられるようになっています。定年は、専門職としての役割の終わりではなく、自らの経験、生活、健康、価値観に応じて、新たな関わり方を考える一つの節目ともいえます。

本冊子は、こうした声を踏まえ、これまで会報誌「JPTA NEWS」に掲載した「生涯現役」を最新号まで一冊にまとめた総集編です。誌面には、定年後の再雇用、臨床から地域・在宅への転身、行政や職能団体での活動、教育・後進育成、フリーランス、国際協力など、先達がそれぞれの経験を生かしながら新たな役割を見いだしてきた姿が収められています。

ただし、本冊子は「生涯働き続けること」を一律に勧めるものではありません。「生涯現役」のあり方は一人ひとり異なります。就労を続けること、働き方を変えること、地域や後進に経験を還元することなど、それぞれが自分らしい次のステージを選ぶことが大切です。先達の多様な歩みを通して、読者ご自身のこれからを考えるヒントを見つけていただくことが、この総集編の大きな目的です。

シニア会員の皆様には、これからの働き方や社会との関わり方を考える参考として、また若い世代の会員の皆様には、自らの長いキャリアを展望する機会として、本冊子をご活用いただければ幸いです。先達の歩みや言葉が、新たな一歩を考えるきっかけとなることを願っております。

※ 本冊子では、掲載当時の記事をそのまま収録しています。所属・役職等は掲載当時のものです。また、各記事下部に掲載された登録理学療法士更新ポイントに関する案内・問題解答等は、JPTA NEWS 掲載当時の情報であり、本総集編の発刊趣旨とは異なります。あらかじめご了承ください。

(2026年8月)

(目次)

ページ	所属	氏名	掲載年月
6	広島大学名誉教授／日本理学療法士協会 相談役	奈良 勲（なら いさお）氏	2019年6月
7	神奈川県理学療法士会監事	秋田 裕（あきた ゆたか）氏	2019年8月
8	有限会社総合療育リハ・サービス 代表取締役	山田 星三（やまだ せいそう）氏	2019年10月
9	株式会社 ライフケア彩り	岡田 しげひこ（おかだ しげひこ）氏	2019年12月
10	いずみ整形外科クリニック 副院長	鳥井 浩司（とりい ひろし）氏	2020年2月
11	リハビリデイもみじの家	菅原 巳代治（すがわら みよじ）氏	2020年4月
12	医療法人地塩会 南国中央病院	森田 恵子（もりた けいこ）氏	2020年6月
13	介護老人保健施設 聖和苑	上田 陽之（うえだ はるゆき）氏	2020年8月
14	ツクイ札幌屯田	小神 博（こがみ ひろし）氏	2020年10月
15	福井県難病支援センター相談員	小林 義文（こばやし よしふみ）氏	2020年12月
16	タツミ訪問看護ステーション海老名	大槻 かおる（おおつき かおる）氏	2021年2月
17	高畠町在宅医療介護連携センター	縮井 純一（ちりい じゅんいち）氏	2021年4月
18	小松島市地域包括支援センター	東根 孝次（ひがしね こうじ）氏	2021年6月
19	独立行政法人国立病院機構 別府医療センター	広田 美江（ひろた よしえ）氏	2021年8月
20	特定非営利活動法人 発達を支援する会 じゃんぐるじむ 理事長	松野 俊次（まつの としつぐ）氏	2021年10月
21	一般社団法人 兵庫県理学療法士会	山本 克己（やまもと かつみ）氏	2021年12月
22	日立リハビリコンサル	大内 厚（おおうち あつし）氏	2022年2月
23	丸亀市高齢者支援課 地域包括支援センター	多田羅 昭二（たたら しょうじ）氏	2022年4月
24	医療法人秋津会 徳田脳神経外科病院 リハビリテーション室統括部長	下村 正和（しもむら まさかず）氏	2022年6月
25	PT オフィス荒木	荒木 茂（あらき しげる）氏	2022年8月
26	平和会吉田病院 一般科リハビリテーション室	門脇 明仁（かどわき あきひと）氏	2022年10月
27	介護老人保健施設 ヴィラ弘前	後藤 明教（ごとう あきのり）氏	2022年12月

ページ	所属	氏名	掲載年月
28	マロニエ医療福祉専門学校	金子 操 (かねこ みさお) 氏	2023 年 2 月
29	三津整形外科	近藤 正太 (こんどう しょうた) 氏	2023 年 4 月
30	特別養護老人ホーム ひかりの丘	二宮 智貴 (にのみや としたか) 氏	2023 年 6 月
31	上伊那生協病院	大槻 利夫 (おおつき としお) 氏	2023 年 8 月
32	医療法人 岸本病院	伊藤 清弘 (いとう きよひろ) 氏	2023 年 10 月
33	岩手県立宮古病院 リハビリテーション技術科	高橋 俊明 (たかはし としあき) 氏	2023 年 12 月
34	特別養護老人ホーム あすなろの郷浦和	前園 徹 (まえその とおる) 氏	2024 年 2 月
35	デイサービスうらら	森安 真 (もりやす まこと) 氏	2024 年 4 月
36	フリーランス	楠本 敬二 (くすもと けいじ) 氏	2024 年 6 月
37	福祉機器開発・製造・販売 ケアベアーズ	熊本 裕 (くまもと ゆたか) 氏	2024 年 8 月
38	特別養護老人ホーム高田光寿園・高田 デイサービスセンター	高山 文博 (たかやま ふみひろ) 氏	2024 年 10 月
39	特別養護老人ホームまるめろ	三浦 幸一 (みうら こういち) 氏	2024 年 12 月
40	フリーランス	宮前 信彦 (みやまえ のぶひこ) 氏	2025 年 2 月
41	介護老人福祉施設 ル・ソラリオン	福井 健一 (ふくい けんいち) 氏	2025 年 4 月
42	リコンディショニングステーション宮崎 代表	尾崎 勝博 (おざき かつひろ) 氏	2025 年 6 月
43	特別養護老人ホームいなみ	堀尾 欣三 (ほりお きんそう) 氏	2025 年 8 月
44	栗原整形外科リハビリテーションセンター	伊藤 隆夫 (いとう たかお) 氏	2025 年 10 月
45	デイサービス「いっしょ」	深澤 弘 (ふかざわ ひろし) 氏	2025 年 12 月
46	八王子保健生活協同組合	林 弘康 (はやし ひろやす) 氏	2026 年 2 月
47	出雲医療生活協同組合 在宅支援センター	戸山 香寿美 (とやま かすみ) 氏	2026 年 4 月
48	森之宮病院	紀伊 克昌 (きい かつまさ) 氏	2026 年 6 月

定年退職後の働き方 — JPTA NEWS「生涯現役」から見えるセカンドキャリア —

掲載 43 名のうち、定年・退職前後の働き方が記事上具体的に確認できた **31 名** を整理（掲載記事ベース）

31 / 43

退職前後の働き方を
把握

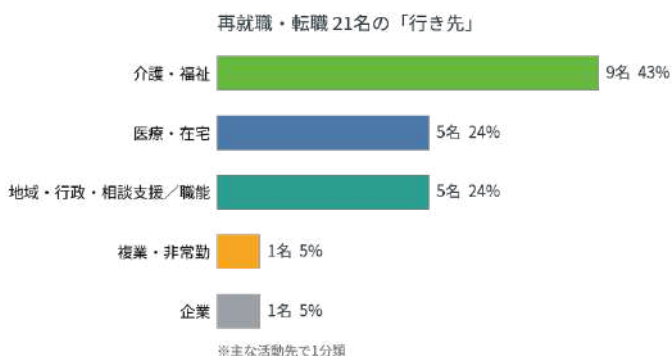
68%

主たる働き方は「再就職・転職」

43%

再就職先では「介護・福祉」が最多

主な働き方（31 名・主たる活動で 1 分類）



具体的にみると — 代表的なキャリアパス

病院 → 訪問看護・訪問リハ
大槻かおる氏、伊藤清弘氏 など

病院 → 特養・老健・デイサービス
森安 真氏、三浦幸一氏、堀尾欣三氏 など

病院・行政 → 地域包括・相談支援・職能団体
縮井純一氏、小林義文氏、山本克己氏 など

組織勤務 → フリーランス・起業・企業
荒木 茂氏、楠本敬二氏、宮前信彦氏、尾崎勝博氏 など

記事から見える 4 つの傾向

1 「場」を変えて専門性を生かす

病院から訪問看護、地域包括支援センター、特養・老健・デイサービス等へ。経験を別の現場へ持ち込む例が多い。

2 医療から介護・地域へ活動領域が広がる

再就職・転職 21 名のうち、介護・福祉 9 名、地域・行政・相談支援等 5 名。生活期・地域での役割が目立つ。

3 働く「量」と「形」を調整する

再任用、契約社員、非常勤、週 2～4 日勤務など、体力・生活とのバランスを取りながら継続する事例がみられる。

4 教育・助言・独立・複業へ経験を還元する

後進育成、職能活動、相談・助言、フリーランス、起業、事業所開設、企業勤務など、臨床以外にも選択肢が広がる。

【集計の考え方】 JPTA NEWS「生涯現役」掲載 43 名（2019 年 6 月～2026 年 6 月）の記事を基に、定年・退職・再雇用・再就職・セカンドキャリア等の記載から 31 名を抽出。複数の活動を行う場合は、記事上の主たる働き方・活動先に 1 分類した。定年前後のキャリアチェンジを含む。

※本ページは掲載事例の傾向を整理したものであり、日本理学療法士協会会員全体の就業分布を示す統計ではありません。

新元号を迎え、新たに花開く 会員諸氏へ寄せて

2019年6月号は、新元号となってからはじめて発行されたJPTA NEWSです。
そこで今号から、「生涯現役」をテーマとした新連載を開催し、
理学療法(士)の黎明期を支え現在も現役で活躍しておられる
先輩方からメッセージをいただきます。

生涯現役



なら いさお
奈良 勲
PT, PhD
広島大学名誉教授
日本理学療法士協会相談役
元日本理学療法士協会長

私は1964年東京オリンピックが開催された年に鹿児島大学教育学部を卒業後、1年半高校教師を務めた。この頃から理学療法に関心をもち始めたが、すでに米国では理学療法教育を大学で実施していたので、奨学金を受けられたことからLoma Linda大学で理学療法を専攻する機会を得た。最低限の会話能力を習得していても専門用語の知識は皆無であったので、当初は四苦八苦して合格点に至っていたが何とか卒業し資格試験にも合格できた。そして米国で1年半の臨床経験をした後、29歳のときに帰国した。

東京と神戸で臨床を重ねた後に、金沢大学医療技術短期大学部(短大)に教授として赴任した。だが、国立短大設置が14年間続き4年制への昇格には時間を要した。1992年に広島大学医学部に保健学科が設置され、私は異動を求められた。その後は大学院(修士・博士)も設置され、1989年(平成元年)に日本理学療法士協会(本会)の会長に就任した際に掲げたマスタープランの1つの目標が実現した。その後、次第に大学教育に推移して学術水準も国際水準に達してきた。

1999年にはWCP T大会を開催し、天皇皇后両陛下には開会式にご臨席いただき、陛下に「おことば」を賜うことができたことは、私を含めて関係者には驚きであり、この上ない感激であった。

元号が平成から令和になり、日本の文化的象徴となった天皇制度が存続することによって、「人々が美しく心を寄せ合い、梅の花のように文化が育まれて明日への希望を咲かせる」ことになれば、安泰した国内外の社会創生に寄与することになる。

日本に理学療法士が誕生して50数年を経過したに過ぎない。本会の「目的」は、「理学療法士の人格、倫理及び学術技能を研鑽し、わが国の理学療法の普及向上を図り、以って国民の医療・保健・福祉の増進に寄与する」ことであり、創立されて以来、その「目的」は確実に遂行されてきた。だが、想定以上に急激な超高齢社会を迎え、理学療法士への要請が高まったことは事実である。仮に、その現象を客観的に認知することなく理学療法士が存在が評価されてきたと錯覚しているとすれば、専門職者としての本質的な使命を喪失しかねない。

理学療法士の平均年齢は32歳であるが、さらに国際感覚を培い、本会の使命を果たすべく未来に向けて積極的に挑むことを期待したい。私自身は77歳になったが、「生涯現役」として書籍の発刊に関与し、時々講演や大学で特別講義を続けている。

Isao Nara

1942年3月17日、鹿児島県生まれ、鹿児島大学教育学部卒業後、Loma Linda 大学(米国)理学療法学部を卒業後、1983年には金沢大学医学部にて博士号取得。1989-2003年の7期に渡って日本理学療法士協会の会長を務める。1999年に第13回世界理学療法連盟国際学会を日本(横浜)へ誘致し、学会長を務めた。2016年に公益社団法人日本理学療法士協会の推薦によって旭日小綬章を受章した。広島大学名誉教授。

新コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先輩から会員の皆さんへメッセージをいただきます。
お問合せ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

理学療法士になろう、 と思った日のことを忘れずに

新元号「令和」を迎えたことを記念して連載スタートした本企画。
今号では、臨床、学術、士会・協会活動と幅広く活動してこられた
神奈川県理学療法士会監事の秋田裕先生に、理学療法士を志して
50年の節目を迎えられてのメッセージをいただきました。

生涯現役



あきた ゆたか
秋田 裕

専門理学療法士
(生活環境支援理学療法)
日本理学療法士学会動物に対する
理学療法部門代表運営幹事
日本身体障害者補助犬学会理事長
神奈川県理学療法士会監事
横浜市リハビリテーション事業団評議員

私が理学療法士になろうと思ったのは今から
ちょうど50年前のことだった。高校を卒業して進路
を決めかねていた頃、友人が進学した大学祭で「リ
ハビリテーション」に関する展示があった。しばらく
して、ある予備校が配布した東大・京大等々の有名
大学から始まる合格者名簿の最後に隠れるように
あった、リハビリテーションの名前を冠した専門学
校が目に入った。

当時の社会は70年安保闘争、沖縄返還運動、ベト
ナム反戦運動、学生運動が高まりを見せていた時
代。ベストセラーとなった『されどわれらが日々』の
登場人物節子が、内定していた就職先や恋人を捨て
て東北の田舎の英語教師に赴任するくだりに触発
されたのか、大学進学をやめて理学療法士になろう
と決意した。専門学校に入学した翌年、4年制教育
を求める紛争が始まったが、リハ草創期の著名な先
生方、個性あふれる先輩や級友に囲まれ、熱いリハ
魂が形成されたのはこの清瀬での4年間である。

私の理学療法士としての強みは、神奈川県リハセン
ター・横浜リハセンターでリハの本流に身を置きつ
つ、そこから次々に枝分かれする流れに分け入るこ
とができたことであらうか。

県士会・協会活動(学会・研修会の企画運営、生涯

学習・理学療法週間推進、国際部での研修生受け入
れ等々)、リハ工学協会車椅子S-I-Gから支援工学
理学療法学会、チエアスキーの普及・国際交流・パ
リンピック、iBOTプロジェクト(膨大なマニユア
ル翻訳と指導ライセンス取得)、介助犬認定審査・補
助犬学会・動物に対する理学療法部門運営。どれも
未知の仕事が多く困難はいくつもあったが、やりが
いのある楽しい仕事をさせて頂いた。

数年前ある大学の入学式で祝辞を述べる機会が
あった。映画「風に立つライオン」を引き合いに「シユ
バイツァーの伝記に感銘を受けて医者になった主
人公のように、皆さんもおそらく、なにか人のため
になる仕事をしたい、病气やけがで苦しんでいる人
の助けになりたい、そんな気持ちがあったのではな
いか。仕事で困難にぶつかったとき、心が折れそう
になったとき、皆さんが理学療法士になろうと思っ
た日のことを思い出してほしい。そして大きな声で
自分自身に『ガンバレ』と叫んでみなさい。そんな
お話をした。

70歳になった現在も、いくつかの大学・専門学校
で講義をするほか、人工呼吸器を装着した寝たき
りの重度身体障害者のグループホームや医療的ケ
アが必要な重症心身障害児の一時預かりなどの場で
「いのち」を全うするお手伝いを続けている。

Yutaka Akita

1949年東京都杉並区の生まれ。
1973年国立療養所東京病院附属
リハビリテーション学院卒業後、
京都と神奈川で臨床経験を重ねる。
「チエアスキー」の開発に関わり障
害者スキーの普及と競技力向上に
寄与。介助犬の認定審査に関わり上
海万博では補助犬(盲導犬・介助犬・
聴導犬)をユーザーとともに紹介し
た。横浜リハセンターでは企業・大学
で開発を進める福祉用具について
臨床の立場から助言と商品開発支
援に関わる。また2輪で立ち上がり
階段昇降も可能な画期的な移動機
器「iBOT」の日本における臨床評価
プロジェクトに参加。2009年横浜
リハセンターを定年退職。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さんへメッセージをいただきます。
お問合せ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

私でも世の中の人の為に 役立つ仕事があった

生涯現役

生涯現役シリーズ第3回は、小児理学療法に長年携わり、
現在は、地域のニーズに従って訪問看護ステーションと、医療的ケア児、
重症児を含む障がい児のデイサービスを運営されている
長崎県理学療法士会所属の山田 星三先生からメッセージをいただきました。



やまだ せいぞう
山田 星三
有限会社
総合療育リハ・サービス
代表取締役

気付くと60歳、65歳を超えていたというのが実感だ。69歳を超えた今もやり残している仕事があった。まだまだ退けない、退きたくないというのが心境だ。この感覚でいるのはまず、理学療法士という私にとつての天職の仕事が見つかったことにある。

高校2年の時、体育の授業中の事故で椎間板ヘルニアになり、病院に手術入院でお世話になって、当時まだ知られていなかったリハビリテーションの分野がある事を知った。この前後の高校時代はいわゆる赤点は取るし落第はするしで精神的にも追い込まれていてどん底だった。何をしてもうまくいかない。そんな時、理学療法士なる仕事がある事を知りエンジンがかかった。

また、理学療法士としてどの分野で行くかの決め手になったのは、長崎市民病院に就職してからも学生の時の実習施設で重症心身障害児施設「ひのみね学園」の子供達から頂いた手紙によって、自分もこの仕事を通して、こんなに喜んでもらえていたんだと気付かされた事によるところ大である。

しかし、その当時皆が敬遠していた中枢神経疾患、ましてや脳性麻痺の子供達の分野に成績優秀(?)の私がと思ったが、それを乗り越えさせてくれたのも子供達であった。感謝するしかない。

そんな訳で長崎市民病院を退職して、大阪の聖母整肢園(現在の大阪発達総合療育センター)に学

びに行く事になった。

次に、再び戻った長崎市での仕事は長崎市衛生部中央・北保健所であった。正職員の理学療法士として日本で初めてのポストが用意されていて(前年度1年間だけ嘱託の理学療法士として西ドイツのサイボルト女史が働いていた)、大阪で身に付けさせてもらった知識と技術を大いに発揮し、また新天地での新しい課題が幾つも見つかり、今までの知識の上に自分なりの工夫を次々にして行かねばならない境遇であった。

例えば、その当時もまだ皆が手がけていなかった、重症心身障がい児・者施設への介入支援。新生児集中治療室への介入。乗馬療法への支援。重症心身障害児・者へのプール療法の展開。老人保健法に基づく保健所からの在宅障害老人、また保健所独自の事業としての障がい児・者への保健婦(師)を伴った訪問(リハビリ)支援・指導。結果的に前例がない仕事に多く従事することになっていった。つまり私にとって生涯現役で仕事をしていけるのは、「どん底」を味わい、不得意分野を持ち合わせている事で、コツコツと克服・達成して行かねばならず、結果的に継続して仕事の出来ている幸せを感じられるのが一番のように思える。従って、現在も看護師や保育士等の養成学校で実技を指導する時、私自身が、新生児の姿勢や運動が出来る体を保つべくくりにも専念している毎日である。

Seizou Yamada

長崎市民病院、愛徳姉妹会聖母整肢園(現在の大阪発達総合療育センター)、長崎市衛生部中央保健所・北保健所、長崎市障害福祉センター設立準備室、長崎市立第1第2さくらんぼ園 園長等を経て、1998年に有限会社総合療育リハ・サービスを開設。車いすバスケットボールチーム(長崎サンライズ)の設立(1978年)など社会活動にも取り組む。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さんへメッセージをいただきます。
お問合せ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

理学療法士として、 役立っているかい、 もっとやることはないかい

生涯現役

生涯現役シリーズ第4回は、在宅・地域の領域で活躍され、
17年間にわたり北海道新聞にも高齢者便利グッズ紹介コラムを連載している
北海道理学療法士会所属の岡田 しげひこ先生からメッセージをいただきました。



おかだ
岡田 しげひこ
株式会社 ライフケア彩り
専務取締役

69歳、理学療法士になって41年目。医療の現場で23年間、在宅・地域の現場で18年間やってきた。初めての現場は、神奈川県厚木のリハビリ専門病院。働き始めて間もなく担当した脊損の高校生の復学に関わった。家族も含め多くの方々の協力で県立高校で初めての車いすでの復学となったが、学業復帰へのアプローチは初体験であり、実際に役立ったのか、もっとやることはなかったのかとの思いを強く持つ。それから、社会復帰の可能性を求め、県内だけでなく長野や秋田、宮城など遠方にもできるだけ出向いた。

次の現場は、北海道札幌の新設の脳神経外科病院。リハビリ専門病院では関わられなかった急性期と生活期を知りたくなり、移る。急性期では、その当時ICUではROM運動のみが大半だったが、廃用症候群と肺炎の予防を目的に発症直後・術直後からの集中した呼吸理学療法とモニター等の監視の下、ADL動作獲得に向けて積極的なリハビリを展開し、「ICUでの肺合併症は予防できる」「急性期から、生活は始まっている」を実感する。退院後の生活期では、訪問看護ステーションにいち早く理学療法士・作業療法士を配置して生活リハビリの充実に取り組んだら、病院内カンファレンス

では在宅困難とされた重度な片麻痺の方や頸髄損傷の方も在宅生活が可能になることを経験する。

生活期をもっとしっかりとみたいと移った在宅・地域の現場は、北海道の市町村の在宅ケアを訪問看護とリハビリで支援する事業団。リハビリ専門職がない市町村と年間契約し保健師による介護予防や在宅訪問の支援や北海道各地に点在する事業団の訪問看護ステーションのリハビリ支援をする。患者ではなく住民の「その人らしい生活をちゃんと考えているか」を自問自答する日々を送った13年間であった。

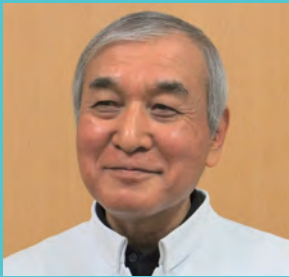
その後、北海道理学療法士会が立ち上げた訪問看護ステーションとデイサービス、居宅介護支援事業所を運営するNPO法人に請われて管理者を務めた後、在宅・地域の新たな現場として選んだのは、認知症対応型デイサービスを運営する株式会社。現在、理学療法士としての認知症ケアを追求している最中である。

(この原稿の提出直前、冒頭で紹介した41年前に復学した脊損の高校生の母親から葉書が届き、57歳で永眠されたこと知らされました。ご冥福をお祈りします。)

Shigehiko Okada

千葉県生まれ。国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院卒業後、神奈川県総合リハビリテーション事業団神奈川リハビリテーション病院、医療法人秀友会札幌秀友会病院、社団法人北海道総合在宅ケア事業団、特定非営利活動法人HPTを経て、現在は株式会社ライフケア彩り専務取締役。北海道理学療法士会監事、北海道訪問リハビリテーション連絡会会長の他、複数の養成校の非常勤講師を務める。高齢者便利グッズ紹介コラム「しげひこのこれは助かる」を17年間、北海道新聞に毎週掲載中。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さんへメッセージをいただきます。
お問合せ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp



鳥井 浩司(とりい ひろし)

いずみ整形外科クリニック
副院長

Hiroshi Torii

九州労災病院、中国労災病院で臨床経験を重ね、総勢3名の小さな診療所に移り、“まちの診療所”でのリハビリテーションのあり方を模索。食生活や枕、靴、椅子の選び方、家事や作業時の姿勢等、「生活の中から治していく」ことを目指してきた。兼務のデイケアにおいても送迎業務から個別リハビリ、管理業務まで幅広くこなしている。医療・介護の分野だけでなく建築や交通機関、行政など幅広い異業種との協働に取り組んでいる。

生涯 現役

まちづくりのために、まだまだ 求められるものがある

生涯現役シリーズ第4回は、東京丸の内のビジネスマンから理学療法士に転身、現在に至るまで地域リハビリテーションの課題に取り組んでいる広島県理学療法士会所属の鳥井浩司先生からメッセージをいただきました。

私にとって幸せだったことは、初任地の九州労災病院そして次の中国労災病院において集中治療室から自宅に退院するまで同じ患者さんに一貫して関わることができたことであった。当時としては珍しかったリハビリテーション・ソーシャルワーカーと一緒に仕事できたこともあって、最初の段階から退院後の自宅での生活を常にイメージしながらプランを立てることを学んだ。退院後の生活のありようが気になり、ご自宅にお邪魔して様子を伺うこともあった。退院時よりもずっと元気になっている人もいたが、退院から半年も経たないのに寝たきり状態になっている人も少なからずいることを知ることとなった。

杖を使いながらも歩いていた人がなぜこうも早く寝たきりになってしまうのか、文献を探し回ったが、当時はこのようなテーマについて参考になるものは見つけれなかった。こうした時に出会ったのが、大田仁史氏らが世話人となる「全国地域リハビリテーション研究会」であった。この会に参加する中で身体的要素の改善を目指しながらも、心理的要素（意欲）や環境的要素の改善も早期から目指す必要があることを学んだ。特に環境的要素は、重度の障がいでは身体機能や意欲の改善が困難な場合でも、周りの人たちが知恵をすれば何らか

の打開策は見えてくるものでありイチ押しのネライ目であった。

家の外の環境であるまちに出かけて行くことのたいせつさを痛感し、安心して出かけられるためのトイレ、電車やバスなどの交通機関、入りやすいスーパーやレストラン、デパート…等を開拓していくため、そこに関わる様々な分野の人たちとも協議を重ねてきた。多くの貴重な情報をいただくと同時に理学療法士等リハビリテーション専門職が持っているノウハウを奪うように求められた。こうした活動は私にとってまだまだ終わることのない課題となっている。

最後に、若い理学療法士の方たちにぜひお願いしておきたいことがあります。ここ数年、様々なスポーツのサポート活動や災害時の救援活動に関わる理学療法士が増えています。こうした活動に加えて、障がいを持った方たちや高齢者の方たちが元のようにまちに出かけて行きやすいまちづくりのための活動にもぜひ参加していただくことを願っています。皆さんの持っているノウハウは皆さんが思っている以上に社会に必要とされています。また、これは専門職の社会的役割でもあるでしょう。そしてこの体験は皆さんにとっても、これからの仕事に大きな視野とエネルギーを与えてくれると確信しています。

新コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージをいただきます。

お問合せ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp



菅原 巳代治 (すがわら みよじ)

リハビリデイもみじの家

Miyoji Sugawara

1975年に秋田県厚生連仙北組合総合病院に入職後、定年までの40年間秋田県厚生連に勤務。1983～1999年、秋田県理学療法士会会長、1999～2008年協会理事を務める。定年退職後には東日本大震災復興特別区に設置された宮古・山田訪問リハビリステーションゆずる（岩手県）にて1年数か月勤務。その後故郷の診療所などにて勤務。5年前から作業療法士で長女の夫が開設したリハビリデイサービス「もみじの家」に勤務している。

生涯 現役

『生涯一理学療法士』で いたい!!

生涯現役シリーズ第5回は、医療機関に勤務しながら士会長・協会理事を務め、定年退職後も地域リハビリテーションに貢献されている
秋田県理学療法士会所属の菅原巳代治先生からメッセージをいただきました。

私は今とても贅沢な仕事をしています。それは、診療報酬や、医師の処方、バス、単位、期限に縛られることなくまた勤務時間もフレキシブルであり、目の前の利用者さんと向き合い、理学療法という仕事を純粋に見つめられるからです。

これまで長い間、医療機関でリハビリテーション専門職として働き、技術や科学的根拠に基づいた治療の難しさ（なかなか結果が出ない）を味わってきました。また、「ゴール設定」、「障害受容」という言葉は重くて、論ずるほどに患者本意から脱線するようで不安を感じていました。今は、リハビリテーションの仕事は『一人ひとりのしあわせにどのように関わるかが原点』かな？と改めて感じています。

定年退職後、自分のライフワークである脳卒中後遺症者のリハビリテーションや地域リハビリテーションの経験を活かしたらと思っていましたが、立ち位置の違いも含め、生活者へ寄り添うことは、むしろ利用者から学ぶことばかりでした。

介護保険利用者はどんなサービスを望んで来るのでしょうか？当施設を利用されている方々は、「自立支援」という大義を信じて「自分を何とかしたい」という気持ちが根底にあり、個別対応に期待する自尊心の高い方々が多いように思われます。そんな境地に到達している方々は、疾病や障害より、畑仕事や個々の希望

などに応える私たちの姿勢を求めています。リハビリテーション専門職（身内の作業療法士）がそこをしっかりとらえたデイサービスを開設したいと願ったからこそ、今の職場を「人に学び生きがいや喜びを共有できる場」として、とてもありがたいなあと思っています。

2020年2月11日、私の尊敬していた「生涯一捕手」、「再生工場」の野村克也氏が逝ってしまいました。今回「生涯現役」の執筆依頼が1月末にあり、「私はまだ現役」と思っていたこのタイミング…。まだ現役でいられることは運が良いことです。「維持期」リハビリテーションというより「生活適応期」リハビリテーションと言いませんか？どんなに老いても、慢性期でも、あるいは進行性でも、今より「しあわせ」を求める利用者さんは変わるし、笑顔になって、元気になってくれる…。そんなとき少しでも役に立っている理学療法士でありたいと思うのです。

今ある自分は家族のおかげですが、この道のきっかけをくださった大恩人、リハビリテーション学院時代からの仲間、秋田に帰って出会った先輩理学療法士や同僚、自分の力不足を強く感じた患者さんたち、それらを最も貴重な宝に「生涯現役」を貫く力の源としたいと思っています。

新コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先輩から会員の皆さまへメッセージをいただきます。

お問合せ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp



森田 恵子(もりた けいこ)

医療法人 地塩会 南国中央病院

Keiko Morita

1950年高知県生まれ。1972年に高知リハビリテーション学院2期生として卒業後、神奈川県内の医療施設での勤務を経て帰高。2004年に現在も勤務している(医)地塩会 南国中央病院に入職し、リハビリテーション部の体制作り等に関わる。2009年より地元南国市介護認定審査会委員、2012年より地域ケア会アドバイザーを務めている。

生涯 現役

『心ある理学療法士』で あり続けたい!!

生涯現役シリーズ第6回は、出生地である高知県で、所属医療施設のリハビリテーション部の体制づくりなどに貢献し、現在は地域包括ケアシステムに関わる領域にも取り組んでいる、高知県理学療法士会所属の森田恵子先生からメッセージをいただきました。

理学療法士となつてはや半世紀近く。これまで多くの先輩・同僚に育てられ助けられて充実した人生を歩んできましたし、歩んでいます。そしてまだ現場にいられることを幸せに感じています。

当時の実習中には、男性が多くをしめていた中、私は小柄でしたので指導していただいた大峯 三郎先生から「その患者さんの前に立った時、体形ではなく大きい…というオーラを出せるようになれば良い」との励ましの言葉をもらいました(この時の大きい…とは信頼できる・頼もしい等の意味が含まれていると後になって理解できました)。

また、ある先輩からは「心なければ身体動かず」の助言ももらいました。

これらの言葉を胸に自問自答しながら理学療法士として医療現場に立ち続け、身も心もたくましく成長できたと思っています。

県外からの帰高後は、臨床はもとより在籍した各々の職場で全てリハビリテーション部の立ち上げ、体制づくりに携わりその醍醐味を味わうことができました(その陰には病院経営者の理解・協力があってのことです)。

患者さんは「この人ならば安心して自分を託せる」「この人ならば今の自分(病気)を何とかしてくれる」、だから「自分もこ

の人を信じてがんばろう」という心^{こころ}が芽生え、自然に回復へ向かう力^{ちから}が出せるのです。

相手から信頼してもらえる知識・技術の研鑽は当然ですが、心を動かし力^{ちから}を生み出し回復への手助けができる理学療法士であり続けたいと思います。

相手を思いやる余裕のある気持ちで常に心^{こころ}をもって接していきたいものです。

昨年10月よりリハビリテーション顧問・渉外統括として在籍していますが、まだ1週間に2~3名の患者さんの治療にあたります。臨床現場に立つことは私の理学療法士としての心^{こころ}ですから。

最近は医療現場だけでなく院外の関連施設でのリハビリテーション専門職としての関わりや市町村・地域の委託事業(介護予防事業)、地域ケア(推進)会、介護保険審査会等への協力参加もしています。

『その人が住み慣れた場所でその人らしい生活をしていく』ために医療・介護の双方の視点で貢献できればと考えます。

輝きながら沈む夕陽のごとく…感謝を忘れず体力・気力の続く限り最後のその日まで。



上田 陽之(うへだ はるゆき)

介護老人保健施設聖和苑

Haruyuki Ueda

1971年、大阪市立大学医学部
附属病院リハビリテーション
科に入職し、理学療法士とし
てのキャリアをスタート。
1987年からは医療法人錦秀会
阪和記念病院リハビリテー
ション部部长、本部医務局リ
ハビリテーション部部长等
を経て、2014年より社会福祉法
人帝塚山福祉会リハビリテー
ション統括部長。1999年から
2007年まで大阪府理学療法士
会会長。

生涯 現役

理学療法士人生50年 「見かた」「考えかた」を変える

生涯現役シリーズ第7回は、臨床を続けて50年、
その間に大阪府理学療法士会会長も務められ、現在も週4回は現場に立つ、
大阪府理学療法士会所属の上田陽之先生からメッセージをいただきました。

理学療法士になって50年目を迎える。患者・家族、組織、社会と関わりながら何かを成し遂げようと頑張ってきた。いろいろな役職にも就いたが、多くの失敗を経験した。そして、いつも多くの人に助けられながら、続けられてきたことには大変感謝している。若いころから、「ものの見かたや考えかたを変えなければ、真の行動は変わらない。当然結果も変えられない。人は学び続けることが大切だ」と恩師であった西本東彦先生に指導をうけたが、未だに難しい。

66歳で、同じグループの医療法人から社会福祉法人に移動し、6年が過ぎた。今は、高齢者施設における「ケアとリハビリテーションのありかた」について取り組んでいる。週に4日出勤し、リハスタッフをはじめ、看護師、介護職等と研修することが日課になっている。この研修は、自身の健康増進とボケ防止にも大いに役に立っているように思う。

利用者の動作分析や食事、排泄のケア環境などを話し合う時に、「利用者の表情や動きを正確に見て、利用者の立場になって客観的に判断しなければならない」とリハスタッフや看護師、介護職に指導することがある。50年間をかけて学んだ知識や経験、価値観、社会通念などは正確で客観的で勝手に思い込んでいた。そして、他者にも同じ見かたや考えかたを強要している。そして、上手く伝えることができない、コミュニケーションが難しいと一人で悩んでいる自分がある。人は皆同じではない、個性を持って

活動していると認識しながら、チームアプローチを進めることの重要性を感じさせられる。

研修をしていると、「私は〇〇ができなくて困っています。どうすればいいか、解決できる“コツ”を教えてくださいませんか」と聞かれることがよくある。目の前の問題を手取り早く解決できる“応急処置”を教えてくださいという気持ちだと思う。最近は非常に便利になった。いつでも、どこでも欲しいと思えばすぐに手に入る時代だ。“即効性のある解決策”を求めることは生活習慣(文化)として当然かもしれない。しかし、日々の研修や臨床の中で、「人とは何か?」「利用者の尊厳とは、主体性とは、自己決定とは」と問いかけながら、利用者には、「安全な動き」「力まない楽な動き」「生活で使える自然な動き」「毎日使える健康的な動き」を提供できるように努めている。その解決策として、スタッフの“見かた”や“考えかた”を変えること、変わることが必要だと考えている。そのために関連する本を何度も繰り返し読むことで理解が深まる。また、スタッフ各自の見かた、考えかたが違うことを理解しながらコミュニケーションを深めることも必要だ。さらに、リハ技術やケア技術は、各自の身体能力を高めながら、10年、20年と日々精進していくことで身につくものだ。学び続けること、成長していくことの楽しさを理学療法士50年の人生から学ぶことができた。

当コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージをいただきます。

お問合せ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp



小神 博(こがみ ひろし)

ツクイ札幌屯田

Hiroshi Kogami

1952年、旭川市生まれ。1979年に川崎リハビリテーション学院の3期生として卒業後、宮城県立整肢拓桃園に入職、1981年から道立札幌・旭川肢体不自由児総合療育センター、道立子ども総合医療・療育センター、済生会西小樽病院で重心児、理学療法士として広い北海道の障がい児療育を実施。子ども達と共に38年、笑顔と成長を楽しみに仕事をしてきた。2018年にツクイ札幌屯田に入職し、高齢者デイスサービスの介護分野で仕事をしている。

※施設名は所属時のもの

生涯 現役

効果と優しさが感じられる 理学療法

本シリーズは本号で第9回を迎えました。そこで今回からは視点を変えて、定年前後でキャリアチェンジをされた先輩にご寄稿いただきます。その初回には、障がい児療育からデイスサービスに分野を移された北海道理学療法士会所属の小神博先生からメッセージをいただきました。

人と接することが好きで、人の為に役立つ仕事をしたいと考え、理学療法士の仕事を選びました。特に高齢者分野での仕事を考えていましたが、いざ就職のときには、苦手意識が強かった、子どもの施設となってしまいました。数年で高齢者施設へ転職しようと考えていましたが、子ども達の可愛らしさや、子どもから成人までの長い期間をフォローできること、発達・成長の過程が見られる興味深さなどから離れられなくなりました。

臨床現場では、子どもの人格を尊重し、愛情を持って接すること、仲良くなることなどに注意して関わっていました。また、理学療法の時間で効果を出し、発達を促し、ADLの向上や質的な向上を図ることを念頭に携わってきました。理学療法の前後で変化がないと感じたときには、評価の視点を変え、問題解決のため、仮説検証作業を行うことを繰り返してきました。そんな私の理学療法に対して子ども自身が身体で答えを出してくれました。子ども達は、様々な知識や情報など、多くのことを私に教えてくれる先生であり、感謝をしています。

介護分野への転職理由は、好奇心によるものだと思います。リハ学卒業時に希望していた高齢者のリハを廃業までに実践したいと思ったこと。小児理学療法の知識・技術の応用が、どの程度使

えるのかを検証すること。介護現場を文献的に知るのではなく、自らの体験で知ることなどです。

高齢者は、姿勢や運動機能が低下し、子どもの発達過程に戻ってしまいます。正常運動発達のどこの時期に戻ったのかを発達運動学的に分析して、どこを強化すれば改善できるかを考えて理学療法を行っています。デイスサービスでは、個々の高齢者に対して直接的な理学療法を実施したり、指導したりする時間が少ないので、ピンポイントでの強化を中心に行っています。

他のデイスサービスでは、専門職の関わりが十分ではなく、質の高いサービス提供ができていると言い難い職場もあると聞いています。職域拡大にもつながりますので、理学療法士の専門的な知識・技術による介護現場への関わりが増えてくることが望まれます。日本理学療法士協会が2020年度の事業計画として出している理学療法士の活動域拡大の理念にも合致しています。

フレイル予防にて、高齢者の方が住み慣れた家や施設で安全に安心して生活ができるように、今後もできる限り関わっていきたいと思っています。

取り留めのないことを書きましたが、やっぱり臨床現場は楽しいです。

※ vol.323より回数表示が誤ってございましたため、今号から訂正させていただきます。

当コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先輩から会員の皆さまへメッセージをいただきます。

お問合せ先：JPTA NEWS 担当 news@japanpt.or.jp



小林義文(こばやし よしふみ)

福井県難病支援センター相談員

Yoshifumi Kobayashi

1958年、福井県生まれ。傷痍軍人だった祖父の影響で理学療法士に。新潟県の養成校を卒業後、療育センター勤務を経て青年海外協力隊に参加。帰国後、福井県立病院に入職し定年まで過ごし、2019年より現職に就く。この間、家業である農業や、看護学校非常勤講師、労働組合や障害者自立生活運動、日本ALS協会福井支部、日本理学療法士協会とNGOで国際協力活動に関わる。56歳で社会福祉学修士号を取得した。

生涯 現役

理学療法士としての歩み、 今までとこれから

本シリーズは本号で第10回を迎えました。前回からは定年前後でキャリアチェンジをされた先輩にご寄稿いただいています。

今回は、青年海外協力隊への参加や患者団体でのボランティアなど多彩な経験をされ、現在は難病支援センターに勤務する、福井県理学療法士会所属の小林義文先生からメッセージをいただきました。

平成が終わる年の3月に定年を迎え、急性期総合病院を辞し、難病支援センターで相談員を始めた。キャリアチェンジした理由は後進に道を譲るため。毎年、大学を卒業する理学療法士は多いが、職場は年々少なくなっている。有能な若者に道を譲ることで、理学療法士の可能性を見てみたいと思った。

転職してみた感想は、それまでのキャリアを生かせるところを狙っていたので、大きな混乱はなかった。まず現在の職場が、それまでの勤務先と同じ建物の中にあること、もっと言うとリハ室の廊下を挟んで向こう側にある部屋である。難病支援という仕事も、30年前から日本ALS協会福井支部やパーキンソン病友の会などにボランティアとして関わっていたことで違和感はなかった。また支援センターの職員や県の保健福祉センター、市町保健師、ケアマネや相談支援専門員にも多少知り合いがいたことで、一からのネットワーク作りは避けることができた。現場のリハ専門職種とも、これまで関わった中枢神経疾患、呼吸ケアや心臓リハビリテーションなどを通じた地域学習活動で、小さな福井県には十分なネットワークがあった。

現在は、広く県内一円の医療・保健・福祉事業所の医師や看護

師、リハ職、保健師、ケアマネ、介護士等と難病患者さんについて話し合うのが楽しい。また、家庭訪問や病院などの訪問も、これまではボランティア活動であったが、今は仕事としてキャリアを積み重ねている。60歳を過ぎたこの歳になって新しいネットワークができることは、実に刺激的で愉快である（反面、以前の付き合いは薄くなり寂しいが）。

難病支援センターの仕事は週に4日なので、これ以外に介護福祉士養成校でリハビリテーションの講義を担当したり、介護事業所で若い職員の指導に当たったりしている。介護分野は特に人材不足が喫緊の課題であり、最近では養成校のクラスの半分以上がアジアからの留学生で占められている。私は20代に青年海外協力隊としてマレーシアで働いた。日本理学療法士協会では、20年ほど国際部員としてアジアとの交流に関わってきた。定年後、これまでの経験を生かそうと日本語教師の資格を取った。理学療法士は本当に良い仕事。語学を学べば、広い世界を相手に仕事ができる。世界にはまだまだリハにアクセスできない人々が多くいて、私たちを待っている。さあ若い諸君、視野を広くもって自分の可能性にチャレンジしよう。

当コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先輩から会員の皆さまへメッセージをいただきます。

お問合せ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp



大槻かおる(おおつき かおる)

タツミ訪問看護ステーション海老名

Kaoru Otsuki

1954年東京都目黒区で生まれ、3歳から日野市で育つ。1976年国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院卒業。東京警察病院多摩分院就職。1981年末結婚退職してから沖縄・広島・神奈川と転職して1985年4月より大和市立病院。2015年3月定年退職し4月より現職。

生涯 現役

生涯、 一理学療法士でありたい。

本号で第11回を迎えた本シリーズ。

今回は、39年間総合病院に勤務されたのち、訪問リハに活動の場を移された、神奈川県理学療法士会所属の大槻かおる先生からメッセージをいただきました。

高校生の時のボランティアで小児の療育施設に行き理学療法士を知ったのが、理学療法士になったきっかけです。小児施設で働きたいと思っていましたが、小児施設での実習を通して「小児はいろいろな疾患を持っている。総合病院で色々な疾患を経験してからの方がよいのではないか」などとおこがましくも思い、総合病院に就職して以来39年間、総合病院から抜け出せませんでした。夫の転勤で最初の9年間は東京・沖縄・広島と転々として1984年から神奈川に落ち着きました。

60歳で定年退職した時と同時に5番目の子供が大学に入学。まだまだ働かなくてはなりません。再就職を考えた時に浮かんできたのが、居住先に貢献したいことと在宅に帰った患者さんがどのように生活しているか、その生活に関わりたい、という気持ちでした。

そこで居住地の訪問看護ステーションに再就職しました。以来6年間、再就職先の65歳定年後も定年後就労継続の契約社員として仕事をしています。

病院での仕事と違い、生活に直結している在宅での訪問理学療法は、その方個々の状況に合わせて介入していくことはもちろんですが、家族や住宅事情等その方を取りまく環境も十分に考慮していかなければなりません。そこが難しい所であり、面白いと言っては語弊がありますが、やりがいのあるところです。

病院で働いていた時から常に小児と関わってきたことも、今とても役立っています。3か月の子どもが立てるようになり、歩けるよ

うになり、装具をどうするか悩みながら成長を間近で見守っていているのは在宅の醍醐味です。

私が就職した時は、特例法で理学療法士になった方が多く働いていて、就職先の初めての学卒として、困難な患者さんを丸投げされました。「学卒だからできるだろう」と言われれば「できません」とは言えません。教科書、ジャーナル、研修会、いろいろな手段で一人ひとりの患者さんの理学療法を手探りで学んでいきました。それが今の訪問リハにとっても役立っています。

とはいえ、常に様々な方が依頼されてきますので、まだまだ勉強していかなければならないことばかりです。訪問リハに必要な医療保険・介護保険の知識、ケアマネさんとの関わり、目まぐるしく変わっていく法制度など、衰退していく脳に鞭を打って詰め込んでいます。コロナの影響でなかなか研修会に参加できないのは、とても残念です。リモート研修会が開催されてき始めたので、何とか受講しようと思っています。

「あなたは、理学療法士免許を持った時からずっと理学療法士なのよ。たとえ就労していなくても、理学療法士としてできることはあるの」—この言葉はリハビリ学院のOT部長だった矢谷玲子先生から数年前に言われた言葉です。その言葉を胸に生涯、理学療法士として自分に何ができるのかを考えながら生きていきたいと思っています。

当コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージをいただきます。

お問合せ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp



縮井純一（ちりい じゅんいち）

高島町在宅医療介護連携センター

Junichi Chirii

1953年山形県米沢市生まれ。地元米沢の病院、東京都内の総合病院リハ科を経て、高島町の公立病院に入職、25年勤務の後定年退職した。以後、病院付属の訪問看護ステーションに勤務、病院事務長の命で「在宅医療連携推進事業」を立ち上げた。2年後、当事業が町の事業に移管されるに伴い、地域包括支援センターに異動。在宅医療介護連携推進員（在宅医療介護連携推進協議会の事務局員）、介護予防推進員（介護予防のための町直轄の通所事業および訪問事業に従事）の2つの職名で勤務し現在に至る。

生涯現役

理想的な地域包括ケアシステム構築を目指して

第12回は、定年を迎えてから訪問看護ステーションでの勤務を経験し、現在は地域包括ケアシステム構築に関わる多様な業務に携わっている山形県理学療法士会所属の縮井純一先生からメッセージをいただきました。

現在、地域包括支援センターで地域包括ケアシステムの2つの分野を担当している。

1つ目の「在宅医療介護連携推進員」は、自ら望んで手がけた仕事ではなかったので、一体どうして行ったらよいものかと迷いながらも、町役場の保健師さんの協力を得ながら町内の開業医、歯科医、調剤薬局、介護支援事業所を回り、説明することから始め、「在宅医療介護連携推進協議会」を立ち上げた。当初は、医療と介護間の壁を取り去ることを目的に、それぞれの仕事を理解し合うための研修会活動や先進地域の講師を招いた講演会などを行ってきた。在宅医療推進に関わる課題は、いわゆる看取りに関する問題、24時間対応診療体制構築の具体的方策、地域住民に対する啓発活動、がん、難病、認知症等の対応、と多岐にわたる。現在は専門職ごとの分科会を作り、それぞれの立場で具体的な方策を提案・検討するかたちになってきている。ちなみに、この専門部会はそれぞれ医師部会、歯科医師部会、調剤薬局部会、看護・介護部会（看護師、リハ職、介護支援専門員など）である。

まだ途上ではあるが、最終的には地域の医師が中心となり、地域の医療職および介護職とともにチームとなって機能的に動くかたちが理想である（このチームとは、在宅療養者の家族も

含めたものでありたいと考えている）。

そして、2つ目の仕事である「介護予防推進員」は高島町直営の介護予防通所事業所での運動指導、介護予防訪問事業における指導、地域ケア個別会議等への助言者としての出席、地域における高齢者サロンでの応相談など、介護予防活動全般に関わっている。また、地域ケア個別会議と介護予防事業とはリンクしており、会議で必要となれば訪問あるいは通所の事業で対応する流れができつつある。この会議に出席しての収穫は、リハ職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）の発する言葉や仕事の内容を、それ以外の職種の方々にも理解していただく機会となり得たことである。

地域包括ケアシステムは、そこで生活する住民が協働して作り上げていく地域づくりと言ってもよい。いささか、手前味噌で理想論の域を出ないが、理学療法士固有の職業的性格である「人間の動作を分析する、障害を見る視点」がそこにあれば、弱者に寄り添う環境（人的も含めて）が、より整うのではないかと考える。それは市井の一市民としてでも助力は可能であろう。ただし聞く耳を持ってもらえる努力は必要だが…。若い理学療法士の皆さんの持てる力を、地域にも注いであらうと考えるこの頃である。



東根 孝次 (ひがしね こうじ)

小松島市地域包括支援センター
「介護予防サポーター」

Kouji Higashine

1951年徳島県生まれ。1978年に小松島赤十字病院（現徳島赤十字病院）に入職し、37年間急性期リハビリテーションに従事。2003年より同病院リハビリテーション課長を務め、在職中は徳島県理学療法士会や養成校で心臓リハビリテーションの講師も多数務める。2014年第32回日本理学療法士協会賞、2019年徳島県理学療法士会功労賞受賞。

生涯 現役

転機を糧に 退職後のテーマは予防

生涯現役シリーズ第13回は、37年間急性期リハビリテーションの最前線で活躍された後、「上医」を目指して介護予防という新たな分野で活躍を続ける、徳島県理学療法士会所属の東根孝次先生からメッセージをいただきました。

高校卒業後、体育教師を目指して学費を貯めるため、一般企業に就職。2年後、事故で下肢を損傷、大学は断念し理学療法士の道へ進み、1978年、26歳で総合病院に就職しました。

転機が訪れたのは、就職して約20年後の40歳代後半のこと。院長より、新病院への移転と病院機能分化に伴い、平均在院日数7日を目指す病院に変革するとの方針が出されました。「7日間で何ができる?」「存在価値はあるの?」など悩んだ末、今まで以上の早期介入と切れ目のない理学療法を目指そうと考え、ICUから積極的なリハビリテーション（以下リハ）が開始できるよう、3学会合同呼吸療法認定士や心臓リハビリテーション指導士などの資格を取得。2002年からは、心疾患リハと土曜日・日曜日のリハも導入しました。

移転後、リハの処方数は毎年増え続け、スタッフの人数も倍になり、急性期医療に対する様々な取り組みが認められたことが何よりの喜びでした。病院機能分化に伴った地域医療施設との連携なども重なり、多忙で厳しい時期でしたが、振り返れば在職37年間で最も充実した期間でした。

また、当時はまだ少なかった心疾患リハの導入により、県内外の理学療法士養成校から非常勤講師の依頼も受け、臨床の傍ら、退職までの12年間教壇に立たせていただきました。目指していた体育教師になったような気分で、喜びもひとしおでした。当時断

念した大学にも通い、退職と同時に卒業することができました。今は健康寿命マスター（徳島大学）とレクリエーション・インストラクター（日本レクリエーション協会）の取得を目指しています。

退職前の13年間は、認定理学療法士（呼吸・循環）も取得し、心大血管リハ専従として携わってきました。そんな時、ある健康雑誌で元・横浜市立大学医学部助教授の山本徳子先生が「上医は未病を治し、中医は病みかけている者を治し、下医は既に病んだ者を治す」という孫思邈『千金方』の言葉を引用されていました。「今、行っているリハはどこに入るのだろうか?」「将来は何か予防につながることに関わりたい」と思うようになりました。

退職後は、介護予防サポーターとしてボランティア活動を行っています。2018年からは、地域包括支援センターよりご依頼をいただき、市民講座「自宅でもできる運動教室」も開催しています。コロナ禍の影響もありますが、市民講座とボランティア活動合わせて70名余りの方を対象として介護予防を実施しています。プログラムは、体・運動・健康などについての座学と多因子運動プログラムで、生活習慣病・フレイル・認知症などを予防し、健康寿命の延伸につながってくれればと思っています。疾病予防や健康維持の重要性を伝える上で、多くの症例から学んだ臨床経験も交えて話すことができ、理学療法士という仕事に従事できたことを『誇りに思う』時間でもあります。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージをいただきます。

お問合せ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp



広田 美江(ひろた よしえ)

独立行政法人国立病院機構
別府医療センター

Yoshie Hirota

1961年宮城県生まれ。養成校卒業後、大分県の国立病院機構に入職。結婚し一男一女をもうけた後も、沖縄県、福岡県など5ヶ所の国立病院に勤務、30年にわたり理学療法部門の管理職務を務めた。子育てが一段落したタイミングでJICA（国際協力機構）シニアボランティアへ挑戦。ペルー国立障がい者リハビリテーションセンターで2年間障がい者スポーツ推進事業に携わる。定年退職後は、再雇用制度を利用し、急性期医療に従事。

生涯 現役

おばあちゃん 理学療法士の後姿

生涯現役第14回は、定年退職後も自らのキャリアアップに邁進され、「国際貢献」をキーワードに後進育成に意欲的に取り組む大分県理学療法士協会所属の広田美江先生のメッセージをお届けします。

「国際的視野を持つ理学療法士の人材育成」が、私のライフワークの目標であり、最終的には現在行っている事業を、国際共同研究までに発展させることが夢である。

これらを実現させるために1. 国際協力 2. 臨床研究においてキャリアアップを図りつつ、定年後のセカンドステージに少しずつシフトしている。

私が長年勤務している国立病院機構は、広域を対象とした高度または専門医療など、日本の政策医療を実施している。私は幸運なことに、在職中に19分野すべての政策医療に関わることができた。しかし、国立病院機構の役割である「診療」「臨床研究」「教育研修」「情報発信」の医療提供が、理学療法の分野では十分な力を発揮できていないと常々感じていた。そこで、何事にも積極的に取り組む向上心のある理学療法士を育てていくためには、まず私自身が欲を捨て、ギブ・ギブ・ギブ＆ギブの環境に身を置くことが必要だと考えた。それがJICAシニアボランティアにチャレンジした大きな理由である。活動中も日本とペルー間で理学療法に関する連携を図るべく、国際医療福祉大学大川キャンパスと鹿児島大学2校のご支援を仰ぎ、3年間延べ30名以上の教員と学生をペルーへ派遣する事業を実行した。帰国後も、国際リハビリテー

ション学という分野の開拓を仲間とともに始めており、11月には福岡で開催される学術大会の大会長を務める予定である。また、大分県理学療法士協会のご協力を得て、ペルーの障がい児スポーツにおける医師や理学療法士の指導力を強化し、ペルー国内の普及促進を図るJICA事業の準備も進めている。

臨床業務では、数年おきに異動を余儀なくされる環境にいたため、臨床研究活動の継続が難しく、研究に関する情報交換や研鑽を行う機会が乏しい現実を目の当たりにしてきた。そのため、質の高い臨床研究、教育研修を推進する理学療法士が互いに切磋琢磨しながら成長できる場とネットワークが必要と考え、昨年度より国立病院機構の仲間を集い、「共同研究をみんなで考える会」を発足させた。私自身、臨床研究を指導できるだけの知識も技術もないため、昨年より九州大学大学院人間環境学府博士課程に進学し、運動疫学を学んでいる。

日々、若い人たちと研鑽することで知識も深まり、信頼できる仲間づくりや活動の輪も広がる。「理学療法には、夢がある。未来がある。仲間がいる。」その思いを行動で示すことも先達の役目と考え、迷いながらも一歩ずつ、意を共にする理学療法士と歩み続けている。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問合せ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp



松野 俊次(まつの としつぐ)

特定非営利活動法人
発達を支援する会じゃんぐるじむ 理事長
こども発達サポートセンター
「じゃんぽっぷ」相談支援専門員

Toshitsugu Matsuno

1954年愛知県生まれ。早稲田大学入学と同時に東京YMCAのボランティア活動を開始。そこでの障がい児との出会いから大学卒業後に理学療法士の道に。子ども達への支援を生涯の仕事と決め、愛知県立第二青い鳥学園・豊田市こども発達センター・岡崎市こども発達センターで39年間勤務した後、現職。障がいのある子どもとそのご家族への支援に貢献すべく、セカンドキャリアに進む。

生涯 現役

障がいのある子どもと ご家族の支援を一生の仕事に

生涯現役第15回は、ボランティア活動で障がい児と出会ったことから理学療法士を志し、現在も子どもとご家族の地域での暮らしを支え続ける愛知県理学療法士協会所属の松野俊次先生のメッセージをお届けします。

もともと子どもが好きだったこともあり、大学入学と同時にYMCAの学生ボランティアをはじめた。子ども達と一緒に公園に行ったり、夏にはキャンプ、冬にはスキーキャンプにも行った。手足の不自由な子どものキャンプに参加し、初めて車椅子に乗った脳性まひの子ども達に出会った。東京教育大桐が丘養護学校(当時)の高等部2年生だったM君との出会いは特に衝撃的で、私の人生を変えた。キャンプスタッフとして参加していた医者話から理学療法士という職業を知り、大学卒業後に養成校に入学、理学療法士となった。

障がいのある子どもへの支援をしたいという思いから理学療法士になったので、最初から子どもの分野に行こうと決めていた。実家の近くに肢体不自由児施設である「愛知県立第二青い鳥学園」があり、就職。当時は脳性まひ等中枢神経疾患に対する治療法として、神経生理学的アプローチが盛んに行われていた頃で、私もそれを学び臨床に取り入れていた。また、在宅で青い鳥学園に通う通園部の担当、愛知県が実施していた地域の通園施設等への巡回療育にも参加し、家庭で家族と共に、地域で暮らす障がい児への支援の大切さを学ばせてもらった。

38歳の頃に、青い鳥学園の園域であった豊田市で総合通園センターを作る構想が持ち上がった。理念は、園域に住む全ての障がいのある子ども達の在宅での生活を保健・医療・福祉・教育が連携して支援すること。幸運にもその企画から関わらせてもらうこととなり、建物の設計、建設、組織作り、人集め、具体的な運営、全てのことに携わった。建物をつくり、備品を入れ、子どもとご家族への支援をさせていただいた豊田市こども発達センターで得難い経験を沢山させていただき、それらの経験から、理学療法士としての視点だけで障がい児をとらえるのではなく、より広い視点から地域で暮らす障がい児とそのご家族のことがよく理解できるようになったと思っている。

今の所属であるこども発達サポートセンターじゃんぽっぷでは、相談支援専門員として相談事業を主に担当している。理学療法士としての専門性と今までの経験を活かし、生活をマネジメントする観点から、地域で暮らす障がいのある子どもとご家族への支援を行っている。これからも子どもとご家族に寄り添いながら、地域での暮らしを支援できたらと思っている。



山本 克己 (やまもと かつみ)

一般社団法人兵庫県理学療法士会

Katsumi Yamamoto

1956年神戸市生まれ。1986年養成校卒業後、神戸市役所に入職、行政内での政策立案や区役所での訪問指導事業、通所の機能訓練事業に従事。地域住民や団体、他の専門職と連携し、地域リハビリテーション、地域理学療法の充実に努め、介護予防やフレイル予防の普及、啓発にも携わるなど、行政一筋で30年間勤務した。2016年神戸市を定年退職し、兵庫県理学療法士会へ入職。日本理学療法士協会協会賞、兵庫県功労者表彰、厚生労働大臣表彰などを受賞。

生涯 現役

県士会・地域・行政の パイプ役として

生涯現役第16回は、行政分野で働く理学療法士として
30年キャリアを積まれた後、兵庫県理学療法士会事務局長として
後進の未来のために活動を続ける山本克己先生のメッセージをご紹介します。

大学卒業後、民間企業に3年間勤務、その後、養成校を経て神戸市へ就職。老人保健法施行直後で行政勤務の理学療法士が求められ、社会人経験もあったことから、養成校の恩師の勧めで神戸市役所へ入職となった。当時は、地域リハビリテーションの概念や理学療法士の職能などはほとんど理解されておらず、県士会の諸先輩に助けられながら少しずつ周囲への理解を深め、組織整備と地域での活動範囲の拡大を図っていった。その後、寝たきりゼロ作戦や介護保険法施行への対応、介護予防などの予防施策への充実に努めつつ、地域住民や地域団体、他の専門職との関わりを深め、ともに地域を支えるための活動を展開してきた。保健所の職分も兼務し、医療機関や介護老人保健施設への実地指導（監査）に赴き、各施設のリハビリテーション部門の治療体制や労働衛生環境について、アドバイスや指導も行い、施設の管理者や経営者に理学療法の適切な遂行体制の整備や、リハビリテーションの充実にための提言なども行ってきた。

市役所に30年勤務した後、定年退職を迎え、5年前に常勤の事務局長として、兵庫県理学療法士会に転職。当時の県士会は、会員の急増や地域包括ケア体制の整備に基づく行政や関連団体との

交渉・連携など、事務局機能の強化が必須となっており、行政内で培ったノウハウや、県、市町、関係団体との連携手法、組織内管理体制の整備のための経験などを活かして事務局長職にあたりている。

この間に事務所移転（兵庫県庁近く）、代議員制度の導入、役員定数増、ペーパーレス化などの改革を行い、効率的な県士会運営を図り、現在もICT・DXの推進や学術・職能・地域貢献の充実に向けて執行部や各部、支部の下支えとなるように努めている。

神戸市と連携し、神戸市リハ職種地域支援協議会を立ち上げ、各種の委託事業を受け、住民集いの場の支援や地域包括ケアの推進にもあたっている。また、兵庫県とは高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施や障害児者施策での委託事業の受託や各種会議への参画を図り、兵庫県医療職団体協議会に加盟し、他の医療職との連携も深めている。

時代はコロナ禍に見舞われ、先の状況は混沌としているが、県士会、地域、行政のパイプ役として下支えに徹し、理学療法士の未来に資する役割を、セカンドキャリアとして今後も果たしていきたい。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問合せ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp



大内 厚 (おおうち あつし)

日立リハビリコンサル

Atsushi Ouchi

1974年養成校卒業後、日立製作所日立総合病院に入職。系列病院や施設のリハビリテーション部門の立ち上げにも関わり、基盤整備や人材育成に貢献。また、茨城県理学療法士会会長として組織整備、会員獲得、養成校開設に力を注ぐ。日本理学療法士協会代議員、組織強化部部員、関東甲信越ブロック代表士会会長を歴任し、養成校の非常勤講師や臨床実習の指導にも携わった。現在、視覚障がい者の情報収集と移動の障害に関する調査研究を行っている。

生涯 現役

視覚障がい者の情報収集と 移動を支援するために力を注ぐ

生涯現役第17回は、臨床現場におけるリハビリテーションの普及や人財育成に貢献された後、士会活動にも尽力され、現在は視覚障がい者の社会参加と健康増進を図るためのさまざまな活動に参加することで、活躍の場を広げている大内厚先生のメッセージをお届けします。

2016年、大学院修士課程に進学。医療安全、人間工学、健康増進、統計を中心に学び、視覚障がい者の歩行支援に関する調査研究を行っている。

視覚障がい者は視覚からの情報がないため外からの情報の80%を失う。それが、情報収集や移動の障害となっている。視覚情報のない視覚障がい者は、メンタルマップを作りランドマークを頼りに歩行する。これらを支援するため、ナビレコとナビエリート研究会（音声道ガイド、音声ガイド地図作製）、オリエンテーションとモビリティ研究会（案内と移動の検討）に参加し、安全な歩行支援を行うための活動をしている。

近年、さまざまな情報はスマートフォンから取得することが多くなっている。しかし、視覚障がい者は画面が見えないためタッチパネルの操作が困難であり、スマートフォンの使用率は20%程度とかなり少ない。スマートフォンの画面読み上げ機能、

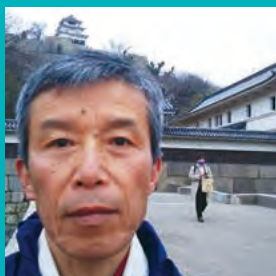
音声入力機能、便利なアプリの使い方のサポートをするため、ITサロン、IT塾などの活動に参加し情報収集の支援も行っている。

また、視覚障がい者の社会参加と健康増進を図るため、「シーサイドパークタンデムサイクリングクラブ」を立ち上げ、その世話人として活動している。

私の最終目標は、視覚障がい者が障害物を避け、安全なルートで目的地まで移動できる支援体制を整えることである。そのため「信号機を語ろうプロジェクト」、「鉄道駅ホーム転落事故・交通事故検討会」にも参加し活動の幅を広げている。

いつの日か、視覚障がい者が自由に移動し活発な社会参加ができるようになることを願っている。

最後に、理学療法士の皆さん、視覚障がい者を見かけたら声掛け、サポートをお願いします。



多田 羅 昭二 (たたら しょうじ)

丸亀市高齢者支援課
地域包括支援センター

Shoji Tatara

1977年九州リハビリテーション大学卒業。同年労働福祉事業団（現労働者健康安全機構）香川労災病院入職。労働災害にかかる傷害・疾病を中心に入院から家庭復帰まで一貫したリハビリテーションに従事し、大腿骨頸部骨折・脳卒中地域連携バス作成にも携わる。2011年4月東日本大震災災害派遣に参加。2015年に定年退職を迎え、継続雇用にて勤務を続けた後、2016年より現職。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問合せ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

生涯現役

Aging- 市民とともに歩む

私の職場は香川県丸亀市にある。丸亀市は木造天守閣の残る歴史ある街である。北は瀬戸内海に面し、平野部には讃岐富士がポツリとそびえ、周りにはため池と田畑ののどかな田園風景が広がる。人口約11万人、高齢化が急速に進みつつある。私は定年まで公的な病院で急性期リハビリを行ってきたが、現在は丸亀市の地域包括支援センターに在籍している。当センターは社会福祉士、保健師、主任ケアマネージャー、理学療法士などが連携を図って、高齢者の種々の相談にあたっている。

理学療法士は、介護予防のための体操を年間60回程度指導している。また、コミュニティセンターでも同様の事業を委託・開催し、丸亀独自の体操「しゃんと体操」をDVD化して、希望者に配布・自主活用していただいている。これらの取り組みを利用されている方は限定的であり、独居や閉じこもりの高齢者に身近な場

所で、もっと頻回に利用していただくことを目標にして、先進の高知市や津山市を手本としつつ新しい試みにも取り組んでいる。

簡単な動作で覚えやすく継続しやすい「元気いっぱい！長生き体操」を作成し、身近な「集いの場」に週に一回集まり、実施していただいている。私達チームは定期的に訪問して、介護予防の情報提供を行っているが、逆に地域の貴重な情報をいただくこともしばしばである。

私自身も高齢者となり、老化の不安や悩み事がわが身となった。できることと言えば、顔を合わせ、短い会話を交わすだけであるが、少しでも気持ちを和らげ、解決の糸口になればと思っている。「市民の皆さんが、住み慣れた地域でいきいきと楽しく暮らし続ける」そんな日常を達成できることを願って、讃岐平野を駆け回る日々である。

コツコツ学ぼう

予告!

登録理学療法士
更新ポイント
問題解答

本年度より新生涯学習制度が開始となりました！

新たに誕生した「登録理学療法士」は5年毎の更新制となり、更新ポイント取得要件の1つとして「会報誌JPTA NEWSを利用した問題解答」があります。次号（No.337）から、問題解答がはじまりますので、登録理学療法士の方は、更新ポイント取得に向けて、ぜひチャレンジしてみてください。

※問題解答は、登録理学療法士取得者が対象となります。

解答にあたっては、必ず登録理学療法士更新制度に関する説明資料を十分にご確認ください。

登録理学療法士更新制度に関する詳細は、
本会ホームページをご確認ください。

▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/>
「登録理学療法士更新ポイント 問題解答」に関するお問い合わせは、
本会ホームページお問い合わせフォームからお願いいたします。





下村 正和 (しもむら まさかず)

医療法人秋津会

徳田脳神経外科病院

リハビリテーション室統括部長

Masakazu Shimomura

1957年鹿屋市生まれ。大学卒業後、1982年に国立療養所福岡東病院附属リハビリテーション学院に1期生として入学した。卒後は鹿児島県立児童総合相談センターをはじめ、県内5か所の県立病院・施設を10回転勤し、うち奄美大島には2回赴任した。また鹿児島県理学療法士会の理事を24年間務めた。2017年に定年退職し縁あって現在は徳田脳神経外科病院に勤務中。余談だが、毎年の米づくりと趣味のテニスは早30年以上のキャリアとなっている。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先輩から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問い合わせ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

生涯現役

リハビリを育て、 リハビリに育てられた、私

生涯現役の投稿に際し、これまでのキャリアを振り返るよい機会をいただいたことに感謝している。鹿児島県に入職し33年間勤務したが、当時は県士会員も50名余りで、県内におけるリハビリ部門の認知度は低かった。施設の事務長には「リハ部門は自分達で作ってください」と言われ、そんなことができるのだろうかと思悩んだ日々だったが、今やリハビリ部門も他のコメディカルと同様の組織に育った。私自身も初の技師長、参事と大役を通じて何とか若い職員達への道筋は作れたのではないかと考えている。

リハビリという仕事については、先輩がおらず、自問自答の毎日だった。本を読み、幾多の現職者講習にも参加したが、すぐに臨床で応用できなかった。本当にこれでよいのか、自分が納得できないことを患者さんに行きつてよいのか、と考えては工夫して、の連続だった。ただ、その道筋を教えてくれたのは、いつも目の前の患者さんであり、悩みへの答えも患者さんが持っていたと思

う。一人ひとりの患者さんに合ったオーダーメイドのリハビリを創造する…、昔も今もその思いは変わらない。

そんな中、入職9年目に呼吸リハビリに出合い、視診、打診、聴診の毎日になった。とにかく患者さんのフィジカルな評価をめざすようになった。得られた情報からイメージし、「理論」とそれに裏づけされた「手技」の獲得をめざしたことは、拠り所の一つになった。また、2010年からがん患者リハビリテーション料が新設されたことで、加えて「コミュニケーション」の重要性を認識するようになった。障害や死を目の前にした患者さんの苦しみに意識を向けて、理学療法士として如何に介入するか…、今も自分が納得できる道を勉強中である。

「目の前の患者さんにとって、今何が必要なのか？」理学療法士という専門職として、どこに視点を置き、方向性を見つけていけるか、若いスタッフとともに、悩み、研鑽を重ねる日々である。

コツコツ学ぼう！

登録理学療法士
更新ポイント
問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得要件の1つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます！

登録理学療法士の方は、更新資料を予めご確認のうえ、右記のQRコードを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください！



カリキュラムコード

132 認知能の障害

回答期限は8月19日まで

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>
コツコツ学ぼう！登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ** からお願いいたします。





荒木 茂 (あらき しげる)

PT オフィス 荒木

Shigeru Araki

昭和53年国立療養所近畿中央病院
付属リハビリテーション学院を卒
業し、石川県内の県立中央病院、
小松市民病院、石川県リハビリ
テーションセンターなどのリハビ
リテーション部門開設に関わる。
平成27年定年退職後、石川県初の
特別支援学校の理学療法士として
令和2年まで勤務。その後フリー
となり、PTオフィス荒木代表。
現在は身体障害者更生相談所の嘱
託職員、特別支援学校のアドバイ
ザー、セミナー講師などに従事。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問い合わせ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

生涯 現役

人が役割を作るのではなく 役割が人を作る

私の場合、生涯現役というほど一つの道を究めてきたわけでは
ない。理学療法士が希少価値があった時代に、ただ流されてその
時その時の状況で道を選択してきただけのことである。ホグワーツ魔法魔術学校校長のダンブルドアがハリー・ポッターに言った
言葉。「君が何者であるかは君の持っている能力ではなく君の選択
によって決まるんだよ。」この年齢になってこの意味がよくわかる。

私は石川県内の3つの公的病院のリハビリテーション部の開設
に関わってきた。私にそのような能力があったわけではなく、ただ
経験のある理学療法士がいなかっただけのことである。職場を変
わらないという選択肢もあったかもしれないし、いろいろな縁で
断れないということもあったかもしれない。道を選択したことによ
り、その職場に育てられ、その役をこなせるようになっていく

ものだ。能力というのは、誰しもはじめから備わっているもので
はなく獲得していくものである。

定年後は今まで経験したことがないことをやってみたかったの
で、県で初めての特別支援学校に勤務する理学療法士になった。
障害のある子どもたちや教師との関わりは、私に多くのことを教
えてくれた。新しい道を選択しなかったら新しいことを学ぶ機会
はなかっただろう。若いときは選択肢が多く適応能力があるが、
年をとるに伴い選択肢が少なくなり、適応能力も落ちてくる。若
いうちにいろいろ経験した方が人としての成長につながる。今は
家でごろごろしていると女房に白い目で見られるので、いたしか
たなく勤労高齢者の道を選択している。

コツコツ学ぼう！

登録理学療法士
更新ポイント
問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得要件の一つに、JPTA NEWS
の問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます！
登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRコード
を会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください！



カリキュラムコード

14 医療制度と法律

回答期限は10月19日まで

マイページ内のeラーニング画面からもご回答いただけます。セミナー番号「101321」でお申し込みください。
手順については、下記ページ「問題解答の概要」資料をご確認ください。

※解答後、2～3日以内にマイページ内の履修状況へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>
コツコツ学ぼう！登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ** からお願いいたします。





門脇 明仁 (かどわき あきひと)

平和会吉田病院
一般科リハビリテーション室

Akihito Kadowaki

1956年高知県生まれ。21歳高知リハビリテーション学院を卒業し奈良県立奈良病院に就職。37歳奈良県理学療法士会会長に就任。士会法人化や奈良県理学療法士学会、近畿理学療法学会、全国研修会を担当。60歳定年退職、縁あって平和会吉田病院に再就職。

最近の趣味はキャンプや歴史巡りです。出雲の古代遺跡、朝倉遺跡や関ヶ原古戦場など当時をしのびながら歩くのは想像力をかき立て大好きです。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問い合わせ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

生涯 現役

気づきと興味が セカンドキャリアを育んだ

1977年21歳、初めて就職した頃に亡き母は「息子はビリビリテーションの仕事をしている」と周囲に話をしていました。この時代はそんな認識でしたし、当時の私もよくわからないまま仕事をしていました。後に学生実習指導を受けるのですが、自身のあまりの知識のなさを恥じ入りました。そこで奮起して勉強すると、知識が深まることの楽しさや知識がつながった時のおもしろさがありました。その気づきがスタートでした。幸いに就職した病院はさまざまな疾患の患者さんがおられ、高度急性期からの理学療法士の役割を学びました。

43歳、放送大学教養学部に入學。学びがおもしろいとの気づきが後を押し入学しました。4年間の通信教育や対面授業で学問の広さと深さに触れ、多くの興味がわきました。これがその後の仕事や歴史巡りなどの趣味活動を広げました。

60歳定年退職後、平和会吉田病院に再就職し現在に至っています。ここは在宅生活に向けて徹底的に患者さんをフォローする、面倒見のよい病院です。前職では自宅退院を視野に入れることは少なく、多くの患者さんが転院する病院でした。吉田病院の在宅に向けた退院前カンファレンス、退院前在宅訪問、訪問看護ステーションからのリハビリ訪問などは、私にとって興味津々の世界です。なるほど、こんな考え方があるのか。私の定型的思考を修正してくれる若いスタッフからの指摘もありがたいです。前職で高度急性期医療からの理学療法士の役割を学び、現職ではリハビリの集大成とも言える在宅生活への理学療法を学んでいます。これまでの気づきと興味が、私のセカンドキャリアを育てていると感じています。

コツコツ学ぼう！

登録理学療法士
更新ポイント
問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得要件の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます！登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRコードを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください！



カリキュラムコード

111 消化器疾患

回答期限は12月19日まで

マイページ内のeラーニング画面からもご回答いただけます。セミナー番号「102561」でお申し込みください。手順については、下記ページ「問題解答の概要」資料をご確認ください。

※解答後、2～3日以内にマイページ内の履修状況へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>
コツコツ学ぼう！登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ** からお願いいたします。





後藤 明教(ごとう あきのり)

介護老人保健施設 ウィラ弘前

Akinori Goto

昭和58年弘前大学医療技術短期大学部卒業、同年、黒石市国民健康保険黒石病院入職、整形外科疾患や脳血管疾患患者を主とした急性期リハに携わるとともに、リハビリテーション科の充実に取り組み、令和4年3月退職。その間、青森県理学療法士会理事として、学術局長を8年、事務局長を18年務め、士会員との情報共有、士会法人化にも尽力した。令和4年日本理学療法士協会協会賞受賞。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問い合わせ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

生涯 現役

生き生きといっまでも

令和4年4月より縁あって当施設（入所115床、グループホーム30床併設）で働くこととなった。この年齢になって新しい職場へ就くには、人間関係がうまくいくだろうか、医療職場から介護職場へ変わること仕事で覚えらるだろうかなど、不安だらけであった。そんな中、勤務初日、一人の入所者様から「先生、ごさ来たんだが、良かったじゃ。」と声をかけられた。なんと以前勤務していた病院で、10年ほど前に私が担当した脳卒中の患者様であった。今でも名前を覚えてくれていたこと、顔見知りか一人でもいたことが心強く、少し不安は解消された。

仕事内容も入所してくる方の運動機能評価や、入所者様の機能訓練・ADL訓練など、私としては、今までの経験がすごく役に立っている。また、リハスタッフも、OT 5名、ST 4名と充実しており、

PTは私一人だけだが、色々と相談を受けたりと、人間関係もどうにかなりそうな気がした。

当施設では、明るく笑顔で誰でも安心して過ごせる場の提供を基本理念としている。そのため、なるべく家庭的な雰囲気を大事にしようと、毎月季節に合わせた行事が行われ、それにも協力している。特に、夏の納涼祭では今年入職した新人チームの一員として、マツケンサンバを披露したところ入所者様にも好評で、老体に鞭打ち練習したことが報われホッとした。

まだ、勤務して半年を経過したばかりであり、入所者様のために何ができるのか自問自答しながら日々過ごしている。入所者様はもとより私自身も、いっまでも生き生きとした生活が送れるよう、今後も努力していきたい。

コツコツ学ぼう！

登録理学療法士
更新ポイント
問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得要件の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます！登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRコードを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください！



カリキュラムコード 区分1:17 個人情報保護法 回答期限は2月19日まで

マイページ内のeラーニング画面からご回答いただけます。セミナー番号「104997」でお申し込みください。手順については、下記ページ「問題解答の概要」資料をご確認ください。

※解答後、2～3日以内にマイページ内の履修状況へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>
コツコツ学ぼう！登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ** からお願いいたします。





金子 操 (かねこ みさお)

マロニエ医療福祉専門学校

Misao Kaneko

昭和30（1955）年 栃木県鹿沼市生まれ 国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院を卒業後 栃木県にある自治医科大学附属病院に入職、その後上都賀総合病院、国立療養所宇都宮病院、結城病院、足尾双愛病院などに勤務し、自治医科大学附属病院を60歳定年後の再雇用を経て、令和3年3月で退職。現在は非常勤で受刑者の運動指導、クリニックでの理学療法、自由民主党栃木県理学療法士連盟支部長を務めている。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問い合わせ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

生涯 現役

理学療法士として 働くためにすべきこと

昭和49年3月、国立大学合格を目指した受験に失敗し、地元の病院で理学診療科の助手に採用していただいたのが理学療法、理学療法士との出会いだった。1年後、今は廃校となった国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院の理学療法学科に入学し、3年後の昭和53年国家試験に合格し理学療法士となった。

2年目になって栃木県理学療法士会という組織の存在を知り、上司の勧めで入会、同時に日本理学療法士協会の会員となった。今年で理学療法士45年、日本理学療法士協会員44年となる。

令和3年3月、再雇用が終了し、4月からは悠々自適な年金生活と思いきや、暇を持て余しどう過ごすか悩む日々であったが、今は理学療法士の仲間から非常勤での職場を紹介いただき、ひと月に6日は患者さんの治療や指導に従事できており、充実した日々を過ごせるようになった。これは、理学療法士という国家資格を持っていることの特別な優位性であり、理学療法士という専門職

（プロフェッショナル）に感謝している。

理学療法士は、障害を持った方のリハビリテーションを支援する専門職として養成され、半世紀を経ている。平成18年4月、診療報酬改定により理学療法という治療手段に対する対価がなくなり、疾患別リハビリテーション料という区分になった。医療分野で理学療法料はなくなったが、理学療法士の活動分野は医療・保健・福祉分野に限らず、スポーツ・産業分野など確実に広がっている。これは、理学療法士個々人の活動によるところもあるが、私は理学療法士という専門職のための組織の存在、活動の成果であると信じている。

理学療法士として働き続ける限り、理学療法士のための組織活動を支援したい。そうすることが、理学療法士が真の意味で「プロフェッショナル」と認められるために必要なことだと考えている。

コツコツ学ぼう！

登録理学療法士
更新ポイント
問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得要件の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます！

登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRコードを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください！



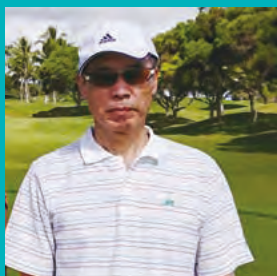
カリキュラムコード 区分11:131 慢性疾患・複合疾患の管理 回答期限は4月19日まで

マイページ内のeラーニング画面からもご回答いただけます。セミナー番号「107073」でお申し込みください。手順については、下記ページ「問題解答の概要」資料をご確認ください。

※解答後、2～3日以内にマイページ内の履修状況へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>
コツコツ学ぼう！登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ** からお願いいたします。





近藤 正太(こんどう しょうた)

三津 整形外科

Shota Kondo

1979年高知リハビリテーション学院卒業。リハビリテーション専門病院、総合病院、整形外科病院を経て、三津整形外科に勤務。現在に至る。愛媛県理学療法士会理事・監事、日本運動器徒手理学療法学会監事、日本筋骨格系徒手理学療法研究会評議員などを務める。2020年日本理学療法士協会協会賞、2021年愛媛県理学療法士会会長賞受賞。整形徒手理学療法士(OMPT)、専門理学療法士(運動器)、GPT(Golf Physio Therapist) Official Instructor。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問い合わせ先: JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

生涯 現役

徒手理学療法に感謝

この投稿のお話をもらった時、一度はお断りした。それは、私自身セカンドキャリアの立場になく、約30年近く務めた職場に今も勤務している。しかもいまだに未熟者であることがその理由であった。

県士会広報の方から重ねてのご指示をいただき、私のような凡庸な人間でも大丈夫ということだったので引き受けすることにした。

理学療法士として仕事をはじめて約43年、そのすべてを臨床の場に置き、医療機関で勤務する中で、初めの15年は主体を中枢神経系、その後の年月を運動器系と、多くの患者さん、ご家族と臨床を通して接する機会を持たせていただいた。

臨床経験が13年を過ぎた頃、徒手理学療法の手技であるKaltenborn-Evjenth Conceptを学ぶチャンスに恵まれ、総合病院から整形外科に身を置くことに。それから今日に至るまで徒手理学療法を学び続け、患者さんの変化に一喜一憂する中で、まだ力の足りなさを感じ、試行錯誤を繰り返しながら、患者さんと向き合っている

現状からいまだ抜け出せないでいる。

理学療法に対する探究心はどちらかと言えば旺盛な方であり、それに費やす時間、労力は惜しまなかったように思う。しかし、何よりも学び続けることができる技術に出会ったことに幸せを感じている。これからも「素直な心」を持ちながら「守破離」のプロセスを大事にし、そして、「感覚と直感」を大切にしてきた徒手理学療法、まだまだその技術にこだわっていきたい。

最近では、唯一身体を動かす趣味のゴルフに徒手理学療法以上の経験を積んでいるが、ここにきてなぜかスイッチが入り、さらなる高みを目指し技術の追求に励んでいる。どちらもゴールは果てしなく遠い。

近年、理学療法はさまざまな領域にどんどん広がりを見せている。近い将来、運動器系疾患の予防に貢献できる理学療法士が、一般企業に当たり前のように勤務し活躍する時代が来るであろう。

最後に、理学療法士という職業、その奥深さに感謝する。

コツコツ学ぼう!

登録理学療法士
更新ポイント
問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得要件の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます!

登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRコードを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください!



カリキュラムコード

区分13 理学療法概論

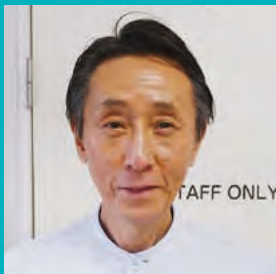
回答期限は6月19日まで

マイページ内のeラーニング画面からご回答いただけます。セミナー番号「109303」でお申し込みください。手順については、下記ページ「問題解答の概要」資料をご確認ください。

※解答後、翌日中にマイページ内の履修状況へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>
コツコツ学ぼう! 登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ** からお願いいたします。





二宮 智貴 (にのみや としたか)

特別養護老人ホーム ひかりの丘

Toshitaka Ninomiya

大学卒業後、川崎リハビリテーション学院を1986年に卒業し免許取得。その後、いくつかの病院や施設を経験して、60歳で定年退職し現在の特別養護老人ホームに就職。幅広い分野であらゆる疾患を経験し、特に運動器疾患や神経難病・足部疾患・装具などに興味を持つ。日本靴医学会をはじめ、足病・義肢装具、転倒予防、ターミナルケア関係の学会・団体に所属している。特に足と靴の問題は、ライフワークだと思っている。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問い合わせ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

生涯現役

生涯現役で「リハビリ」を続けるために

生涯現役で理学療法士を続けるうえで、私の経験をもとに、若い世代の方々に少しばかり記しておきたいと思います。

私はこれまで複数の病院や高齢者施設を経験してきました。その間、ずっと「リハビリはリハビリを提供しているのか」という思いが消えないままです。

今は高齢者施設に勤務しています。ここでも入居してくる高齢者の多くは、多大な廃用症状を有しています。何らかのリハ施設や病院を経ているはずなのに、廃用症状がその人の能力低下の大きな部分を占めているのです。その上に麻痺や運動器疾患、認知症が多重的に加わって、本人の能力を大幅に全身的に阻害しています。

今まで受けたリハビリを尋ねると、各種の歩行訓練や筋力増強、起居動作、そしてマッサージなどという例が多くみられます。疾患や症例ごとにリハビリの違いはさまざまであるはずですが、提供している内容は似かよっているようです。廃用症状に介入できる時間

もチャンスもなかったのでしょうか。

私は対象者がどんな疾患であっても、口腔内や、嚥下・発語・呼吸を診て、体幹や下肢全体、そして足部と履き物を診て、いかに病態像に影響を及ぼしているかを総体的に考えます。そして、装具や履き物・福祉用具の適否や要不要も含めて、総合的にアプローチを判断していくことが重要だと考えています。

現行制度では、多くの書類を経ることが前提で収益を得るシステムになっています。それらは概ね煩雑で難解であり、書類のための書類になっている感が否めません。そんな中で理学療法士は、果たして対象者の病態像をどこまで把握し、リハビリ内容にどう反映しているのでしょうか？ リハビリは、時にその人の人生までも左右します。その重責を、私達は担っているのです。以上が、これまでの私の経験から若い世代の方々にお伝えしたいメッセージです。

コツコツ学ぼう！

登録理学療法士
更新ポイント
問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得要件の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます！

登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRコードを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください！



カリキュラムコード

23 理学療法管理・学

解答期限は8月19日まで

マイページのセミナー検索画面からも申込可能（セミナー番号：110894）、申込期限は「8月18日」です。

※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>
コツコツ学ぼう！登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ** からお願いいたします。





大槻 利夫 (おおつき としお)

上伊那生協病院

Toshio Otsuki

1973年九州リハビリテーション大学卒業、翌年の74年から2011年まで諏訪赤十字病院勤務。同年4月から上伊那生協病院回復期病棟勤務、月曜日から金曜日のフルタイムで患者さんへの理学療法介入、スタッフの指導をしている。1999年、日本理学療法士協会 神経系専門理学療法士。2003年、第38回日本理学療法学会大会準備委員長。2015年までは日本神経理学療法学会運営幹事。現在（一社）日本ボース講習会講師会常任理事、議長。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問い合わせ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

生涯現役

理学療法は 「知識と実践それに直観」 し かに みる こと

リハビリテーション、理学療法というものをほとんど知らないまま、勧められて受験し運よく合格、長野の田舎から北九州小倉に恐る恐る出ていきました。学校は小倉の街の郊外にあり、理学療法士、作業療法士合わせても40名のクラスはほとんどの学生が学校に隣接した寮生活で、とても雰囲気がよく、勉強ばかりでなく先輩達ともよく遊びました。卒業してからの私の理学療法は一方通行で押しつけ的なものであったと振り返っていますが、今では日々の治療介入に際して患者さんの表情や姿勢、hands onした時の身体状況から目の前の患者さんの心身の様子を読み取ることが自然に行えるようになってきていると思います。これに気づかせ、導いてくれたのは、理学療法士になって10年後に受講したボース基礎講習会であり、ここでの講師陣や受講生グループとの出会いが私にとって一生の宝物になりました。土曜日の午後、電車で飛び乗り、最終電車で何とか帰宅する東京での症例検討会への参加、片言の英語で恐縮しながらも、さまざまな国での講習会受講や会議への参加が私の視野を世界へと広げてくれ、今でも常にエネルギーを私に与え続けてくれ、理学療法の奥深さを教えてくれています。

コロナ禍で対面での治療技術を伝える講習会を持つ機会が少なくなった中で、西田幾多郎という哲学者の「善の研究」という本を解説書付きで読みました。「真理はひとつであり、それには知識（知ること）と実践が重要であること」、「直感と直観」には違いがあり、経験を積むと培った知識をベースに優れた「直感」も働くようになるが、常に患者さんをじかに見る「直観」がとても大切、というように理解できる内容が書かれています。いろんな地域・環境で働いているからこそ対面でお互いの息遣いを感じながら勉強し、交流する機会が必要であることを常々強く感じています。

以前のように活発に研修会、講習会が開かれ、理学療法の楽しさを共有できる空間を創り出すことに関わっていききたいです。

コツコツ学ぼう！

登録理学療法士
更新ポイント
問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得要件の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます！登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください！



カリキュラムコード

33 医療倫理：研究倫理と生命倫理

解答期限は10月19日まで

マイページのセミナー検索画面からも申込可能（セミナー番号：112864）、申込期限は「10月18日」です。

※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>
コツコツ学ぼう！登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ** からお願いいたします。



伊藤 清弘(いとう きよひろ)

医療法人 岸本病院

Kiyohiro Ito

1955年、京都府舞鶴市で生まれる。岡山大学卒業後、1984年国立近畿中央病院附属リハビリテーション学院卒業。同年、市立舞鶴市民病院入職、脳神経外科と整形外科の急性期から慢性期医療に従事。退職後は岸本病院にて訪問リハ中心に在宅を飛びまわっている。専門は地域リハ、福祉用具と住宅改修。行政の改修相談に参画、これまでに1千棟余りの改修に携わる。また高齢者の介護予防事業など幅広く地域活動にも従事している。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問い合わせ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

生涯現役

一生現役、一生勉強

今年68歳になった。今、振り返って「理学療法士という仕事に巡り合えて良かった!」と思う。1974年18歳の頃、大学で法律を勉強し始めた。妹に重度の障害があり、いづれ法律を活かして社会福祉分野で働こうと思っていた。そんな矢先、妹の入院していた病院でトラブルがあり長期入院を余儀なくされる。母が付添いに、翌年から私も交互に付添いをするようになる。4人部屋の通路に簡易ベッドを広げて寝た。いわゆるヤングケアラーだ。岡山と京都を行ったり来たりの生活が4年余り続いた。そんな時、入院先の病院で「理学療法科」の理学療法士を見た。患者の手足を動かし歩行助する姿は崇高でまぶしかった。これからの生き方を模索していた私にとって一筋の光になった。この出会いがなければ今頃、私は何をしていただろうか。1984年に入職した市立舞鶴市民病院は、脳神経外科中心の急性期の病院でリハ期間が短く、患者は早期退院を余儀なくされた。患者家族の退院後の生活をめぐって、「治療は終了した」という医師とよく衝突した。介護保険が始まる前で制度が整わない中、退院前訪問など在宅を見据えた取り組みも積極的に進めた。「在宅へのビジョンを示し、患者や家族に在宅のイメージを持ってもらう」がモットーになった。苦しかった付添いの経験が、常に患者

や家族の目線で考える原動力となったように思う。目の前の仕事に追われながら、専門職として何を成し得たのか自問自答するうちに定年を迎えた。退職後、今の病院では、前職ではできなかった訪問リハ部門を希望し籍を置く。猛暑や悪天候時の外勤は歳を重ねるごとに体力的につらくなってきたが、在宅で患者家族に直接関われる環境はセカンドキャリアに相応しい。また訪問リハは、知識、技術、経験を含めた総合力が必要で「ケースから学ぶこと」も多いため、いくつになっても勉強は欠かせない。近年、患者の在院日数が短くなり早期に在宅訪問をするのケースが増えてきた。訪問リハに従事する理学療法士も増えた。今以上に裾野が広がる可能性のある分野だ。これからも若いセラピストと切磋琢磨して訪問リハに取り組んでいきたい。最後に、急性期から在宅まで、40年間仕事が続けられたことに感謝したい。学生時代、ひどい腰痛に悩まされた。当時「白衣の土方」と呼ばれ就職できるのか不安だったことを思い出す。しかし、年月を重ね自らの体の使い方がわかってくと痛みも軽減していった。また体調管理をしてくれた妻にも感謝したい。「理学療法」は楽しい、そして奥深い。まだまだ学ぶことも多く、一生かけて探求するに値する。果たしてどこまでやれるか、日々挑戦だ!

コツコツ学ぼう!

登録理学療法士
更新ポイント
問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得要件の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます! 登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください!



カリキュラムコード

76 失語症

解答期限は12月19日まで

マイページのセミナー検索画面からも申込可能(セミナー番号: 114828)、申込期限は「12月18日」です。

※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>
コツコツ学ぼう! 登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ** からお願いいたします。



高橋 俊明(たかはし としあき)

岩手県立宮古病院
リハビリテーション技術科

Toshiaki Takahashi

1961年岩手県宮古市生まれ。
1983年3月岩手リハビリテーション学院卒業。同年4月医療法人社団弘慈会加藤病院(現 宮古第一病院)に就職。1989年4月岩手県医療局に採用となり県立紫波病院(現 紫波地域診療センター)、1995年4月県立千厩病院、2005年4月県立宮古病院、2014年4月県立中央病院、2018年4月県立宮古病院に勤務し、2022年3月定年退職。同年4月再任用となり現在に至る。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問い合わせ先: JPTA NEWS 担当 news@japanpt.or.jp

生涯現役

働き続けることは、 応化し続けること

私が定年前の職場でフルタイム再任用を選択し、2年目となります。選択理由は、労働環境が整っていたことと、勤務実績が良好な場合は令和8年度末まで任期の更新をできることが決め手でした。当初は平日のみの勤務でしたが、自ら申し出て休日勤務にも組み込んでもらっています。仕事の内容は、ごく一般的なものに急性期の運動器、脳血管疾患等の患者さんの理学療法です。チーム制を敷いているため、毎日の情報収集や翌日に繋げるためのわかりやすい実施記録には、患者担当制と異なり神経を使うところです。

ただ、患者さんを軸に動いているため新人、ベテランを問わずコミュニケーションが取りやすく、お互いに学ぶことも多くあります。いくら40年のキャリアがあっても一個人としての知識や技術には限界がありますし、日進月歩の医療技術と同様にリハビリテーション分野も介入の視点や手技の多様化には目を見張るものがあります。

理学療法士として働き続けるということは、現状に満足することなく生涯において応化し続けることなのだと強く感じる次第です。

思い起こせば県立病院勤務のうち8年は一人職場でした。勤務と並行して近隣市町村の機能訓練事業(いわゆるリハビリテーション教室)にも20年弱関わらせていただきました。そのような状況下で周辺領域の知識の必要性を感じ、介護支援専門員や福祉住環境コーディネーターの資格、日本身障運転者支援機構の運転支援者認定も取得しました。また、上司の命を受けて、いわて糖尿病療養指導士(日本糖尿病療養指導士のローカル版で数居は低い)も取得し、糖尿病教室等で活用させていただきました。これらの知識はアップデートしなければならない部分はありますが、自分の財産となり、折々で患者さんやご家族あるいは関係スタッフへの助言等で今でも役立っていることは間違いありません。

コツコツ学ぼう!

登録理学療法士 更新ポイント 問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得要件の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます! 登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください!



カリキュラムコード

102 運動耐容能

解答期限は2月19日まで

マイページのセミナー検索画面からも申込可能(セミナー番号: 117427)、申込期限は「2月18日」です。

※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>
コツコツ学ぼう! 登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ** からお願いいたします。



前園 徹(まえその とおる)

特別養護老人ホーム
あすなろの郷浦和

Toru Maesono

1980年国立療養所犀潟病院附属リハビリテーション学院卒業、4月より埼玉県障害者リハビリセンターに勤務。1990年上尾中央総合病院リハビリ科長、2004年上尾中央医科グループリハビリ部初代部長、2016年AMG地域健康推進研究所所長・上尾中央医療専門学校学校長、2021年より現職（あすなろの郷浦和施設長）。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先輩から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問い合わせ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

生涯 現役

24時間365日の 理学療法士

現在、特養施設長（常勤）として介護を行いながら、職員の健康管理予防や入居者のリハビリを行い、精神科病院（半日×2／月）で医療の理学療法士として患者と向き合い、パートナーの障害者グループホーム福祉を手伝っています。施設長については、上尾中央医科グループ（以下、AMG）でリハビリ部長、学校長をさせていただいたことが役立ち、精神科病院で30年間患者のリハビリを担当したことで、短時間に痛みをとる技術を磨くことができました。その後、AMG地域健康推進研究所にて職員のあらゆる痛みと向き合い、あらゆる相談を受け、そのことがまた、精神疾患患者のリハビリに生きる形となりました。そして、現在の特養の入所者や職員のケアにも生きています。その基礎をつくったのは、県のリハビリセンターの時代（10年）、細田多穂先生（義足）、楠和佐子先生（モビライゼーション）、今井基次先生（PNF）など、多くの先生方に教わる機会があったことです。あらゆる疾患・症状にも触れることができました。そのことが、職員の健康管理に

ついても大変役立ちました。

国立療養所犀潟病院附属リハビリテーション学院（新潟）の時代に、友人に造り酒屋の息子がいて、日本酒を覚えてから無頼の大酒飲みになりました。もちろん無償で行きつけの飲み屋で知り合ったお客の痛みを改善したり、スナックの昼間の空いている時間帯を利用させていただき、地域の方々の健康講話を行ったり、行きつけのベリーダンス・レストランで、ダンサーに動きの調整を頼まれて動作の改善をすることもしばしばあり、お礼にお店からお酒をいただくこともありました。また、職員からその友人へと相談の輪も広がり、バレエダンスの公演前調整を頼まれることも。企業からの講演依頼も技術向上、知識向上や人脈の広がりにつながり、また、埼玉県の理学療法士会や協会役員を務めていただいたことも、私にとってとてもよい経験となっています。24時間365日、どこにいても理学療法士として楽しんで生きています。多分、働けるまでそうやって生きていますよ。

コツコツ学ぼう！

登録理学療法士 更新ポイント 問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得要件の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます！

登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください！



カリキュラムコード

119 乳・幼児期における発達過程

解答期限は6月19日まで

マイページのセミナー検索画面からも申込可能（セミナー番号：119728）、申込期限は「6月18日」です。能登半島地震の影響により、被災地の一部でゆうメール等の引き受け停止地域があるため、今月号の解答期限を6月19日に延長いたします。

※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>

コツコツ学ぼう！登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ**からお願いいたします。



森安 真 (もりやす まこと)

デイサービスうらら

Makoto Moriyasu

1957年岡山県岡山市生まれ。
1982年川崎リハビリテーション
学院卒業。同年4月、川崎病院(現
川崎医科大学総合医療センター)
に就職。2018年3月定年退職。
同年4月、現所属先に就職。
2019年7月膀胱がん発覚。8月
抗がん剤治療。12月膀胱全摘術
実施。2020年3月職場復帰。9
月低カリウム血症にて心肺停止
後蘇生。2023年6月、水腎症に
て腎臓造設。現在は復職し、元
気に勤務をしている。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問い合わせ先: JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

生涯 現役

元気であること

養成校卒業後の就職は医科大学の附属病院でしたが、まだ理学療法士は3人で、病院の片隅で細々と働いていました。次第に知識・技術・社会的認知度が高まり、資材・スペースも拡大し、スタッフも50人を超えました。そんな時代の中で悪戦苦闘しながら、家族や多くの人に助けられながら何とか定年まで元気に働くことができました。定年退職を機に以前から念願だった地域医療に携わりたく、個人病院併設のデイサービスに再就職しました。一人職場ですが、瀬戸内の美しい海山に囲まれ、花鳥風月を楽しみながら、外来リハビリテーションとデイサービスで元気な高齢者と一緒に毎日頭と身体を活性化し、楽しく仕事をして、徐々に軌道に乗ってきていました。しかし突然、膀胱がんになり膀胱・前立腺・尿路全摘出術を受けました。ちょっと不自由にはなりましたが、元気に職場復帰できました。しかし、ほぼ同時に新型コロナウイルスが流行し、外来リハビリテ

ションは閉鎖、デイサービスもさまざまな制約を受けました。そうこうしているうちに、私自身が心肺停止になったり、水腎症になったりと周りに心配や迷惑ばかりかけています。しかし、経験しないとわからないこともたくさんあります。貴重な経験をさせていただきました。年齢を重ねると健康でいることは難しくなりますが、元気であることはできます。生涯現役でいるにはさまざまな要素があると思います。理学療法士を続けることだけが現役ではありませんが、人生を懸けるに値する職業だと思います。最近では、若い理学療法士が増えています。良い職を得るのは大変だと思いますが、高齢で職を得るのはもっと大変です。理学療法士の職の幅を広げるのも我々の重要な役割だと思っています。幸い、妻も理学療法士で、十分な理解と多大な援助のおかげで元気でいられます。これからも家族や仲間にも助けられながら元気に頑張りたいと思います。感謝。

コツコツ学ぼう!

登録理学療法士
更新ポイント
問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得要件の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます!

登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください!



カリキュラムコード

157 各ライフステージの人間理解

解答期限は6月19日まで

マイページのセミナー検索画面からも申込可能(セミナー番号: 122596)、申込期限は「6月18日」です。

※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>

コツコツ学ぼう! 登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ**からお願いいたします。



楠本 敬二(くすもと けいじ)

フリーランス

Keiji Kusumoto

1958年熊本県生まれ。1980年川崎リハビリテーション学院卒業。同年4月宮城県整肢拓桃園(現宮城県立拓桃園)入職、1982年3月退職。同年4月に故郷に戻り、熊本県松橋療護園(現熊本県こども総合療育センター)に入職し、2019年に退職するまで小児分野の理学療法士として、個別治療や地域支援に従事した。退職後は、地域からの依頼を受け、保育所、こども園、学校、通所支援事業等に訪問し、発達支援に関する助言や提案を行う仕事に従事している。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問い合わせ先: JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

生涯 現役

所感… 地域療育の現場から

退職前の約12年間、地域での療育支援や支援体制整備に携わの中で、発達に課題のある子ども達を支える人材の少なさに驚きました。その経験から、「子ども達の在宅生活を支える一人になりたい」と願いを抱き、退職後の活動の場に地域を選びました。主な活動は、子ども達の生活の場に赴き、ご家族や支援者の方々から日常生活上の姿勢や運動に関する相談を受けることです。これには二つの職場で学んだ知識や技術に基づく経験が大いに活かされていますが、地域には小児分野の専門職も少なく、落ち着いたなさや言葉の遅れなど、職種の枠を超えた相談も多々あります。これらに応えるには、これまでの学びに加えて、新たな知識や技術を学び、工夫を重ねることが必要です。それでも解決できない場合、より専門性の高い機関や個人への紹介など、コーディネートの能力も求められます。つまり、地域においては質の高いジェネラリストが求められており、そのために、これまでの理学療法士とし

ての学びを基礎に、さらに多角的な視点から考え、学び、実践する経験を積み重ねることが必要であると感じています。

その学びの中の一つに、精神分析家エリク・H・エリクソンが提唱した「ライフサイクル・モデル」があります。発達をより深く知ろうと学んだのですが、今では私の人生の指針となっています。エリクソンは人生を八期に分け、それぞれの時期に「乗り越えるべき主題」を示しています。それによると、私は既に「老年期」に入っており、主題は「人生の統合」となっています。自分は両親、恩師、仲間などから何を学び、何を達成したのかと振り返り、集約する時期のようです。私も自らの学びや成果を集約し、後に続く方に伝えたいと考え、勉強会を主催しています。勉強会をより有意義なものとするために、より質の高い活動の経験を重ねるため、日々の仕事にひたむきに取り組み毎日です。

コツコツ学ぼう!

登録理学療法士
更新ポイント
問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得要件の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます!

登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください!



カリキュラムコード

13 国際支援における理学療法

解答期限は8月19日まで

マイページのセミナー検索画面からも申込可能(セミナー番号: 124764)、申込期限は「8月18日」です。

※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>

コツコツ学ぼう! 登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ**からお願いいたします。



熊木 裕(くまき ゆたか)

福祉機器開発・製造・販売
ケアヘアース勤務

Yutaka Kumaki

1958年新潟県上越市生まれ。
1980年3月国立療養所犀潟病院
附属リハビリテーション学院卒業。
同年4月燕労災病院リハビリテ
ーション科、2009年4月新潟労災
病院リハビリテーション科、2013
年4月燕労災病院リハビリテ
ーション科に勤務し、2019年3月定
年退職。2019年4月からケアヘ
アース勤務。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問い合わせ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

生涯 現役

サラ、ナベ、トラスって？

定年退職を機に親交ある友人の福祉機器開発・製造販売の会社に週2回勤務しています。今までの業務と身近でありながら新しい仕事です。初めての専門用語がサラ、ナベ、トラス、これはボルトの種類で個々に役割があります。例えば、サラボルトは頭が平坦でテーブルの固定等平坦な箇所に用います。仕事内容は、座位保持装置や車いすのテーブル、足台、吸引器・呼吸器の置台の製作、背・脚パイプ長の調整、姿勢保持用の体幹骨盤パッド作りなど、患者様が良姿勢で生活しやすくなるようスタッフから指示を受けます。

仕事上よく指摘されるのはネジ山をなくさないようにすること、製品なので傷はつけないようにすること、特にクリアテーブルのカットは削りカスで傷つくのでやり直しもあります。安全管理面では電動回転丸鋸作業で、過去に高回転する鋸に切れ端がはじか

れ肋骨骨折や鋸刃での指切断の事例があったと聞き、立ち位置や作業手順については口を酸っぱくしてコメントを受けます。

スタッフとのコミュニケーションは貴重な時間で、指示確認はもとより、対象疾患の病態や予後、設計の相談を受けたり、時には愚痴を聞いたり、釣りの話で盛り上がります。立場が変われば見方や考え方も変わり、今までの経験が役立つこともあり、新鮮です。

スタッフは営業回り後、作製の現場に入るので大変な思いで仕事をしています。オーダー時にはリハ専門職は特によく会話してほしいと、勤務をしていて感じます。双方のアイデアやプランも広がり、結果として患者様の生活状況に反映し、家族の一助になります。それぞれの財産になること間違いなしです。私はいつもほこりまみれですが、動ける間は頑張ります。

コツコツ学ぼう！

登録理学療法士
更新ポイント
問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得要件の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます！

登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください！



カリキュラムコード

26 救急救命

解答期限は10月19日まで

マイページのセミナー検索画面からも申込可能（セミナー番号：127216）、申込期限は「10月18日」です。

※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>

コツコツ学ぼう！登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ**からお願いいたします。



高山 文博(たかやま ふみひろ)

特別養護老人ホーム高田光寿園・
高田デイサービスセンター

Fumihiro Takayama

1950年三重県津市生まれ。
1985年愛知医療学院卒業、特定
医療法人暁純会榊原温泉病院就
職。1995年玉城町立玉城病院
転職。2009年社会福祉法人高
田福祉事業協会へ転職。現在に
至る。専門は現在も地域リハビリ
テーションであり、介護保険創成
期より行政の地域支援活動などに
積極的に関与し、現在も土会活
動の介護予防事業など幅広く地
域活動に従事している。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問い合わせ先: JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

生涯 現役

人の笑顔を見たかった

現在74歳、津市内の特別養護老人ホーム高田光寿園・高田デイサービスセンターにて週3日間の非常勤で再就職し、15年が経ちました。利用者様の機能訓練を担当しており、地域との関わりがもともと好きだったこともあり、この仕事を続けていて本当に良かったと感じています。

医療リハビリテーションとは異なり、私たちが提供するのは自宅での生活に密着したリハビリテーションです。身体機能を高めるだけでなく、残された機能を最大限に活用し、生活を豊かにすることが目的です。このようなリハビリテーションの中で、理学療法の技術が非常に役立っています。改善し、困りごとを解決すると、利用者様にとても喜んでいただけます。その姿が、私の仕事に対する励みとなっています。

私が就職した頃は、実技講習会を受けるために大阪や東京へ泊まりがけで行きました。AKA（関節運動学的アプローチ）の治療技術、パリス徒手療法、筋膜リリースの講習会などに参加し、

臨床技術を高めることができました。これらの技術は、今でも痛みの治療に非常に役立っており、患者様や利用者様の信頼を得ることができました。一緒に喜びを分かち合える瞬間は、私にとって貴重な経験です。

また、ポジショニング・シーティング技術も習得しました。これは、姿勢を整え、移乗の介助負担を軽減させるために在宅系のリハビリテーションを行っていくうえで役立ちました。さまざまな講習会に参加することで、患者様や利用者様に還元できることはもちろん、同じ目的を持つ仲間とディスカッションをする機会も得られました。講習会を通じて困った事例を相談し合えることもでき、非常に有意義な時間でした。

最後になりますが、私が理学療法士を目指した理由は、「人の笑顔を見たかった」からです。これからも、利用者が笑顔で過ごす時間を少しでも持てるよう、相手の困りごとを耳を傾け、動作をゆっくり観察しながら、ともに歩んでいきたいと思っています。

コツコツ学ぼう！

登録理学療法士
更新ポイント
問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得方法の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます！

登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください！



カリキュラムコード

118 胎生期における発達過程

解答期限は12月19日まで

マイページのセミナー検索画面からも申込可能（セミナー番号：127218）、申込期限は「12月18日」です。

※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>

コツコツ学ぼう！登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ**からお願いいたします。



三浦 幸一(みうら こういち)

特別養護老人ホームまるめろ

Kouichi Miura

1961年宮城県栗原市生まれ。
1985年国立仙台病院附属リハビリテーション学院卒業。同年国立療養所西多賀病院(現国立病院機構仙台西多賀病院)に就職。以後、国立病院機構の病院を転任。理学療法士長、理学療法専門官(併任)の職を務め、2022年3月定年退職。同年4月より特別養護老人ホームまるめろに機能訓練指導員として勤務。宮城県理学療法士会監事。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先輩から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問い合わせ先: JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

生涯 現役

毎日を楽しく健康に!

退職後どうするか考え、晴耕雨読的な生活で悠々自適の生活を送ることが、一瞬頭をよぎりましたが、人見知りで、社交性も低い自分がそんな生活をしたら、すぐに社会的フレイルとなり、その先はフレイルドミノまっしぐらになる可能性大だと思い、やはり働くことにしました。定年間近に、近所で開設する特別養護老人ホームが理学療法士を募集することを知りました。「高齢者は退院したら終わりではなく、これからが始まり」という言葉が以前から胸に残っており、介護保険領域に興味があったので、これもなにかの縁と感じ働くことにしました。

介護保険領域での業務は未経験でしたが、生活の中での認知症の方に対する言動や振る舞い、看取り介護チームでの活動などはじめてのことも多く、学ぶことが多くありました。やはり勉強は一生続くのだと感じています。以前は転職がある職場でしたがさ

まざまな疾患を経験でき、今でも入居者さんの疾患にあった環境づくり、車いすや福祉用具の適合、介助方法等のアドバイスに役立っています。また、LIFE(科学的介護情報システム)関連の帳票を定期的に取りまとめて送信する業務は、今までの計画書などの作成の経験が活かしています。

この仕事をしてきたからこそ、他者を思いやる心が育まれ、人として成長できたと感じています。理学療法士として生きてきて、心から良かったと思っています。また養成校時代の同期生とは今でも交流が続いており、かけがえのない友人となっています。

釣りや旅行、家族や友人たちと楽しい時間を過ごし、摂生に努め(これがなかなか難しい)、心と体の健康を保つことが、いろいろな意味での生涯現役を続けるために必要なことだと思います。

コツコツ学ぼう!

登録理学療法士
更新ポイント
問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得方法の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます!

登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRコードを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください!



カリキュラムコード

27 医療安全・安全管理

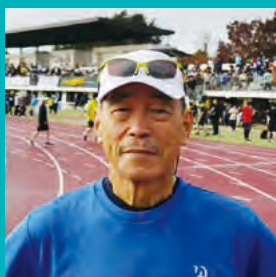
解答期限は2月19日まで

マイページのセミナー検索画面からも申込可能(セミナー番号: 130111)、申込期限は「2月18日」です。

※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>

コツコツ学ぼう! 登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ**からお願いいたします。



宮前 信彦(みやまえ のぶひこ)

フリーランス(所属なし)

Nobuhiko Miyamae

1952年東京都北区生まれ。1979年社会医学技術学院卒業。同年4月千葉県袖ヶ浦福祉センター療育園入職。1981年4月千葉県千葉リハビリテーションセンター施設統合のため勤務異動。2016年に退職し、現在に至る。専門は小児療育分野(臨床・教育・研究)。1992年～2000年千葉県理学療法士会会長。現在は千葉県理学療法士会相談役として勤務。小児から高齢者まで地域リハビリテーションに携わる。千葉市介護保険認定審査会委員。千葉県介護支援専門員指導者。養成校非常勤講師。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。

お問い合わせ先: JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

生涯 現役

自分流のセカンドキャリア 自分なりの現役、頑張ります!

27歳で資格取得以来、再雇用を含めて37年間の現役生活にピリオドを打ったのが2016年3月でした。あれから8年が経ち、現在72歳、どこの施設・病院にも所属せずにフリーランス理学療法士として幾つかの仕事に携わっている、自分なりのセカンドキャリアについて紹介させていただきます。退職後はどうするかについて考えましたが、確たる結論に至らず、なるように任せようと考えました。基本は好きなことをする。嫌なことはしない。現役時代は医療・福祉の現場でしたので、嬉しいこと楽しいことが勿論ありましたが、やはり多くの患者様、ご家族の方々に感謝されたことは望外の喜びでした。反面、組織の中でリーダーとしての仕事を任された以後は、協働していた多職種との協力関係、上司、部下との意見調整、職員教育、リスク管理等々。キャリアの後半では、度重なる診療報酬改定への対応等々、臨床家の仕事

というより事務調整役に忙殺されていた感もありました。そんな時代に、千葉県理学療法士会活動に関わる中では、何人かの思いを共有する仲間や古くからの友人達との交流が今にして思えば本当にありがたいものでした。内外の多様な方々との信頼関係に基づくつながりの中で、応える仕事も継続しています。まさにご縁があったのでしょう。現在、名刺の肩書は「REHAB CONSULTANT」としています。現役時代の経験を活かし、限られた条件ですが、よろず相談窓口として、自分にできることがある限り、シニアになっても常にブラッシュアップ、アップデートできるよう頑張っています。内緒ですが、リタイアしてから始めたことが二つあります。一つは孫のピアノレッスンに刺激されて始めた、なかなか上達しないピアノ演奏です。二つ目は60歳から始めたマラソンです。まだまだ自分なりの現役、頑張ります。

コツコツ学ぼう!

登録理学療法士
更新ポイント
問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得方法の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます!

登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRコードを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください!



カリキュラムコード

15 理学療法士及び作業療法士法

解答期限は4月19日まで

マイページのセミナー検索画面からも申込可能(セミナー番号: 130683)、申込期限は「4月18日」です。

※解答完了後、翌日中に履歴履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>

コツコツ学ぼう! 登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ**からお願いいたします。



生涯現役



介護老人福祉施設 ル・ソラリオン

福井 健一 (ふくい けんいち)

1956年鳥取県倉吉市生まれ。1978年九州リハビリテーション大学卒業。同年、山陰労災病院入職。1988年から鳥取県立厚生病院に勤務となる。リハビリテーション室長の職を務め2016年定年退職。その後再任用期間を経て、2019年より現職。鳥取県理学療法士会では32年間にわたり理事や監事を務め、2009年から6年間は士会長を務める。1997年第33回全国研修会準備委員長。2020年協会賞受賞。



本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへのメッセージを募集しております。
お問合せ先: JPTA NEWS担当

news@japanpt.or.jp

「生涯現役」を目指して



私は鳥取県内の2つの公的病院で勤務し、主に急性期リハビリテーションを行ってきました。定年後3年間の再任用期間を経て、もう少し長く仕事を続けたいと思うようになり、縁あって現在の職場である介護老人福祉施設に機能訓練指導員として勤務することになりました。現在のリハビリテーション室のスタッフは理学療法士1名、作業療法士2名、言語聴覚士1名、歯科衛生士1名の計5名で、連携を取りながら業務を行っています。私は週4日の勤務で、主な業務は「個別リハビリテーション(1日10～15人程度)」「各種評価」「介護職員への指導(ポジショニング、シーティング、移乗方法など)」「計画書作成とカンファレンスへの参加」です。施設にはリハビリテーションの専用スペースがないため、各居室やホール、廊下で行っています。介護領域での業務は初めてで最初は戸惑うことも多くありましたが、「あの利用者さん、立てるようになったんですね。おかげで移乗の介助が本当に楽になりました」など、介護職員から笑顔で言われると、根が単純なので本当に嬉しくなってしまう。

現在の施設では利用者さんのほとんどがここで最期を迎えることになります。入所期間も数年になるため心身ともに機能低下が進むことは避けられません。その中で理学療法士としての役割は何か、利用者さんに少しでも安寧、安心の生活を送っていただくには今何が一番必要なことか、独りよがりのリハビリテーションをしていないかなど、常に自問自答を繰り返しながら日々の業務に当たっています。

1978年に理学療法士となり47年が過ぎようとしています。どういう職場にしようとする理学療法士は自分の努力が報われることの多い魅力ある仕事であることは間違いないと思っています。定年などという概念に縛られず、自分が健康であれば(これが難しいが)年齢に応じて続けられる職業だと確信しています。来年に古希を迎えますが、そこがゴールではなく一つの通過点となるよう、精進していきたいです。

登録理学療法士
更新
ポイント

コツコツ
学ぼう!

登録理学療法士の更新ポイントの取得方法の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます。登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRコードを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください。



カリキュラムコード

109 内分泌・代謝疾患

解答期限は6月19日まで

問題解答

マイページのセミナー検索画面からも申込可能(セミナー番号:137437)、申込期限は「6月18日」です。
※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>

コツコツ学ぼう!登録理学療法士更新ポイントに関するお問合せは、本会ホームページFAQからお願いいたします。



生涯現役



リコンディショニングステーション宮崎 代表 尾崎 勝博 (おざき かつひろ)

1988年 理学療法士免許を取得、国立療養所長崎病院リハビリテーション科に勤務。1996年 日本体育協会公認アスレティックトレーナー取得。1996年（一財）弘潤会野崎東病院リハビリテーション部に勤務し部長職を務める。1999年 ユニバシアードスペインパルマ大会日本選手団本部医務班理学療法士、2001年 宮崎県スポーツ協会 宮崎県スポーツ医科学委員会（トレーナー部会長）、2002・2003年 日本オリンピック委員会バレーボール強化スタッフを務めるほか、2001年以降は各地で開催された国体で、宮崎県本部医務班トレーナーとして活動。2024年（一財）弘潤会野崎東病院を定年退職。同年、リコンディショニングステーション宮崎を開院。



本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへのメッセージを募集しております。
お問合せ先：JPTA NEWS担当

news@japanpt.or.jp

理学療法士は生涯治療家・ アットホームな治療院づくり



私は38年あまり医療機関で理学療法士として勤務してきました。その間、医療と地域（スポーツ現場を含む）の連携活動に対して日本理学療法士会協会賞（2015年）、宮崎県医療功労賞（2020年）などを頂きました。しかし病院での勤務経験を振り返ると「病院に行くまでではないが、身体に不調がある」「自費のほうが、自由度が高く個別対応が手厚く感じる」「民間療法を継続し続けたあまり重症になった」「リハビリテーション期限を過ぎても術後の後遺症を抱え悩んでいる」という患者様の訴えを聞いたことで、医療機関での対応のみでは、限界があると考えようになりました。そこで、医療機関外でも、何か自分で県民や地域住民に対応できる方法はないかと考え、定年退職を機に開業を決意しました。理学療法士という医療資格や日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの資格を活かし、自費にはなりますが、来院された患者様のリコンディショニングやコンディ

ショニング、エクササイズの指導を実践し、患者様の痛みや不調の予防・改善、ADLの向上、生活の質（QOL）の向上を目指しています。一つ屋根の下で鍼灸師の資格を持つ娘、看護師の資格を持つ妻と協働し、家族経営でトータルに患者様に対応できる形を取りたいと日々奮闘中です。来院した患者様に私の施術に加え、鍼灸の施術を提供しつつ、妻によるバイタルチェックや健康管理のアドバイスをトータルにできるアットホームな治療院づくりを理想として掲げています。また今までの私の医療機関内外での活動経験を生かし、様々な医療機関（医師）とも連携し、重症化の防止や病院受診のアドバイスやフォローなどを行い、地域住民や県民のための治療院を運営しています。家族みんなが「生涯治療家」「アットホームな治療院づくり」の意識を持ちつつ協力し合い、生涯仕事に従事していきたいと思っています。

登録理学療法士
更新
ポイント

コツコツ
学ぼう！

登録理学療法士の更新ポイントの取得方法の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます。登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRコードを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください。



カリキュラムコード

16 医療法ならびに関連職種の資格法

解答期限は8月19日まで

問題解答

マイページのセミナー検索画面からも申込可能（セミナー番号：142744）、申込期限は「8月18日」です。
※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>

コツコツ学ぼう！登録理学療法士更新ポイントに関するお問合せは、本会ホームページFAQからお願いいたします。



生涯現役



特別養護老人ホームいなみ

堀尾 欣三 (ほりお きんそう) さん

1958年生まれ、1982年金沢大学短期大学部卒業。同年富山県厚生農業組合連合会高岡病院理学診療科入職、その後高岡女子看護科、高岡医師会看護学院非常勤講師。滑川病院を経て、公立井波総合病院(現南砺市民病院)勤務。2019年定年再雇用にて、南砺市訪問看護ステーションに入職。2024年4月より特別養護老人ホームいなみに勤務し、現在に至る。富山県理学療法士会顧問、同元会長。介護支援専門員、住環境福祉コーディネーター2級、心臓リハビリテーション指導士。協会長賞、富山県厚生功労賞受賞。



本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへのメッセージを募集しております。

お問合せ先: JPTA NEWS担当

news@japanpt.or.jp

まだまだ理学療法



「世界に誇る一流の田舎づくり」を目指して奮闘中の富山県南砺市の特養で機能訓練指導員として働いております。

1982年、県で21番目の理学療法士として厚生連高岡病院に入職。まだまだ未熟で患者さんに理学療法を提供するということには足元にも及ばない状態でありながら、無担当制・ベルトコンベア式に先輩や当時の理療士といわれる方々と数名で入院外来1日100名程度の患者さんの物理療法と運動療法を行っている状態でした。今思えば隔世の感があります。その後担当制となり、症例検討会や診療科や部署でのカンファレンスも定期的に行われるようになり、徐々に業務が整備されてきました。当時有り難かったのは、県士会や北陸三県で行われるリハビリテーションの勉強会や学会、東海北陸学会や全国学会、そして士会活動でした。滑川病院への移動をきっかけに地域リハビリテーションを意識するようになり、その後、中山間地の公立井波総合病院(現南砺市民病院)の理学診療科に転職し、未整備であっ

た地域の急性期・回復期・終末期(生活期)のリハビリテーションの体制の整備に尽力できました。当時の訪問リハビリテーションは研究会もなく、全国で展開されているものの診療報酬がありませんでしたが、訪問看護ステーションの設立で訪問リハビリテーションの展開が可能となりました。回復期リハビリテーション病棟も医療体制上認可され設立。また、地域に即した病院という有利さもあり、デイケアセンター開設もでき、センター長として、地域でのリハビリテーション勉強会、研修会、地域リハビリテーションフォーラムなども開催し、関係職種や関係機関との連携も図りました。定年後再雇用で南砺市訪問看護ステーションに在職しましたが、2024年3月に退職し、同年4月から現在の特別養護老人ホームいなみで機能訓練指導員として入所者の理学療法を担当しています。急性期・回復期・生活期を通じて改めて地域リハビリテーションを思い、理学療法はリハビリテーションの何なのか、何をなすべきかを考えている日々です。

登録理学療法士
更新
ポイント

コツコツ
学ぼう!

問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得方法の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます。登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRコードを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください。



カリキュラムコード

60 社会参加

解答期限は10月19日まで

マイページのセミナー検索画面からも申込可能(セミナー番号: **143212**)、申込期限は「**10月18日**」です。
※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>

コツコツ学ぼう!登録理学療法士更新ポイントに関するお問合せは、本会ホームページFAQからお願いいたします。



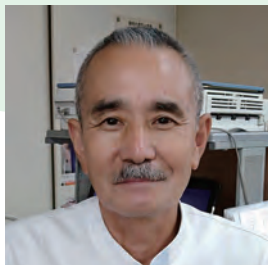
生涯現役



栗原整形外科リハビリテーションセンター

伊藤 隆夫 (いとう たかお)さん

1950年宮城県で出生。1985年高知リハビリテーション学院卒業。同年に高知市の近森病院に就職。1986年から在宅医療で訪問リハビリテーション(以下、訪問リハ)に従事し、その後近森リハビリテーション病院の開設に関わる。1998年に活動拠点を東京に移し、台東区で診療所からの訪問リハを実施。2002年に初台リハビリテーション病院、2008年に船橋市立リハビリテーション病院と回復期リハ病院の開設に関わる。そして2008年から6年間、日本訪問リハビリテーション協会の会長を務め、現在も相談役を継続。2018年より栗原整形外科に勤務し、現在に至る。



本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへのメッセージを募集しております。

お問合せ先: JPTA NEWS担当

news@japanpt.or.jp

地域に根差した在宅リハビリテーションの実践

1974年に理工系の大学を卒業後ゼネコンに就職しましたが、就職の夢を捨てきれず、その資格を取るため高知の短大に入学しました。その時にたまたま高知市の近森病院の理学療法助手の仕事に就いたのがきっかけで、理学療法士を目指すことになりました。近森リハビリテーション病院では在宅部門を担当し、その後東京へ出てからは回復期リハ病院での教育部門の責任者として、専門職の教育・研修や多職種チームアプローチの実践を指導する部門で活動してきました。

2016年に東京の医療法人輝生会を定年退職し、妻の実家である和歌山県有田市に移住しました。2018年、かつて訪問リハの研修でお世話になった現和歌山県士会長の紹介で、栗原整形外科に就職しました。栗原整形外科は無床診療所で、理学療法士5名、作業療法士1名の6人体制で外来・通所・訪問リハを実施しています。高齢化の進んだ地域でもあり、外来は整形疾患を抱えた高齢者への運動療法が

メインとなっています。長年臨床から遠ざかっていましたが、こちらに来てから外来・通所・訪問と高齢者の理学療法にどっぷりつかっています。

2008年に日本リハビリテーション病院・施設協会が地域リハの支援拠点として、「在宅リハビリテーションセンター」構想を打ち出したことがありました。「通所リハと訪問リハ」を両輪とした病院や診療所の活動が地域リハを支える核になるとの提言で、これを地で行くような活動に現在従事しています。高齢化の進んだ地域を支えるための在宅リハビリテーションは本当にやりがいがあり、地域に根差した理学療法をこれからも天職としていきたいと思っています。

最後に私事になりますが、和歌山に来てサイクリングにはまって、週末は紀州の海岸線を疾走して心身ともにリフレッシュしています。まだまだ人生のチャレンジを続けていきたいと思っています！

登録理学療法士
更新
ポイント

コツコツ
学ぼう!

登録理学療法士の更新ポイントの取得方法の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます。登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRコードを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください。



カリキュラムコード

120 小児期における発達過程

解答期限は12月19日まで

問題解答 ☒

マイページのセミナー検索画面からも申込可能(セミナー番号:143304)、申込期限は「12月18日」です。
※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>

コツコツ学ぼう!登録理学療法士更新ポイントに関するお問合せは、本会ホームページFAQからお願いいたします。



生涯現役



デイサービス「いっしょ」

深澤 弘 (ふかざわ ひろし) さん

1944年生まれ。福島県白河市出身。1970年清瀬リハビリテーション学院卒業。済生会神奈川県病院を皮切りに7つの病院に勤務。2007年定年を前にフリーに転向。2012年、地域に残されたリハビリ対象の方々を一人でも多く支援していくことを目的に、通所介護施設「デイサービス・いっしょ」を開設し現在に至る。「いっしょ」は「俱会一処」の一部を頂いて付けた名称。



本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへのメッセージを募集しております。
お問合せ先：JPTA NEWS担当

news@japanpt.or.jp

働けるよろこび



若年の時、ある病院の講演会で高僧の方が言われた「働く」ことは「傍(はた)」を「楽にする」ことに通じるという言葉聞き、それを心に留めて仕事を続けてきました。

学生の頃、本郷三丁目の古書店の店主から「勉強は新しいものだけを求めるのではなく、できるだけ古い文献から出発しなければならない」と教えられたことが印象的です。

理学療法関連の研修会のほかに他領域の研修会、講演会にも多く参加しました。このことが後の仕事の守備範囲を広げることに役立っています。

それほど頑丈ではない身体で、現職50年、80歳現役の目標を通過できたのには2つの要因があります。一つは仕事が好きになったことです。もう一つは健康診断で指摘されたこ

とに真面目に対応してきたことです。検査結果には誠実に対応し、日常心配事はできるだけなくてしておくべきと思います。

仕事を続けられるのは、体力、気力との勝負とっていますが、一日一日最長不倒距離を延ばし、余力を残さず使い果たすまで働き続けられたら幸せと思っています。

この仕事に求められるのは心の優しさだと思います。アシジのフランチエスコのように自然との対話、自然界にある命あるものとの対話ができるような柔らかい心を養うことを日頃心掛けていきたいです。私の人生、生活を支えてくれているこの職業に感謝しています。

登録理学療法士
更新
ポイント

コツコツ
学ぼう!

問題解答 ☒

登録理学療法士の更新ポイントの取得方法の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます。登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRコードを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください。



カリキュラムコード

5 患者・対象者(家族を含む)教育

解答期限は2月19日まで

マイページのセミナー検索画面からも申込可能(セミナー番号:143484)、申込期限は「2月18日」です。
※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>

コツコツ学ぼう!登録理学療法士更新ポイントに関するお問合せは、本会ホームページFAQからお願いいたします。



生涯現役



八王子保健生活協同組合

林 弘康 (はやし ひろやす) さん

1959年千葉県生まれ。1982年社会医学技術学院卒業。同年、帝京大学医学部附属病院に入職、横山記念病院(現:清智会記念病院)での勤務を経て、1993年より社会医学技術学院に勤務。26年の養成校勤務後、2019年より八王子保健生活協同組合城山病院に勤務。医療施設および介護保険事業所を持つ法人において、リハビリテーションを統括的に運用する活動に関わり、現在に至る。東京都理学療法士協会では理事、副会長を歴任し、現在は監事を務める。



本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへのメッセージを募集しております。
お問合せ先: JPTA NEWS担当

news@japanpt.or.jp

教育場面から臨床場面に復帰しての役割がある

養成校卒業後、大学病院および一般病院での臨床経験を約10年、母校に戻って教員経験を26年、臨床場面に戻って現在の職場に7年程勤務しています。現在の病院は実習施設であり、病院のリハ部門の将来に向けた話をしていく中で、当事者として勤務することになりました。業務的には、法人内のリハビリテーション部門に関係する業務の管理が主となっています。

勤務先の法人は医療生協ということもあり、病院以外に複数の在宅事業所を運営しており、住民の地域での生活継続を支援することを理念としています。リハ部門も病院・各事業所業務だけでなく、自治体に協力した介護予防事業等にも参画しています。地域におけるリハ職種の活躍する場面は多くあり、参加するスタッフには病院業務以外の自分たちの職種の

可能性や面白さを知ってもらいたいと思っています。

教育場面から臨床場面に戻った立場なので、職員教育や実習生指導のアドバイスもしています。職員教育では、日本理学療法士協会の生涯学習制度を基本として、各自が興味を持つ学習を進めるための情報提供、関係研修会等の参加の促しを行います。理学療法士協会への所属や事業に興味を持ってもらい、参加することに進んでほしいと考えています。実習生指導では、現在の学生気質に合わせた対応等を確認して、実習生・指導者共にストレスなく臨床実習が継続するためのアドバイスを心がけています。これからも若手の理学療法士や理学療法士を目指す学生に向けて、エールを送り続けたいと思います。

登録理学療法士
更新
ポイント

コツコツ
学ぼう!

問題解答 ☒

登録理学療法士の更新ポイントの取得方法の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます。登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、以下の方法からチャレンジしてみてください。

〈紙冊子を閲覧している場合〉

会員専用アプリでQRコードを読み取ってください。申込期限は「4月19日」です。

〈QRコード読取ができない場合〉(WEB上で閲覧している場合など)

マイページから、セミナー番号で検索してください。(セミナー番号:152292)、申込期限は「4月18日」です。
※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。



カリキュラムコード

29 感染と理学療法

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>

コツコツ学ぼう!登録理学療法士更新ポイントに関するお問合せは、本会ホームページFAQからお願いいたします。



生涯現役



出雲医療生活協同組合 在宅支援センター 戸山 香寿美 (とやま かすみ)さん

1957年島根県で誕生。1978年行岡医学技術専門学校卒業。玉造厚生年金病院に勤務。その後、整形外科医院へ。1989年出雲医療生活協同組合へ入職。法人内の一般病院、リハビリ病院、訪問リハ、デイケア等々全てのリハ関連施設を回り、現在は、市の委託を受け、通いの場立ち上げ支援、通いの場継続支援、地域の活性化につながる「出雲いきいき体操」の普及等にも努めている。



本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへのメッセージを募集しております。
お問合せ先: JPTA NEWS担当

news@japanpt.or.jp

地域の一員としての役割

卒業後初めての勤務先では、四肢の切断や脊損、人工関節など整形部門のことをたくさん学び、また、現在の通いの場の先駆け的なこともさせてもらい、若いうちにしかできない充実した年月を過ごしました。次の職場は、1人職場で、そのころ珍しい訪問リハもさせてもらい(ほとんどボランティアみたいな)、回復期リハを立ち上げ、どんどん人員を増やして100人を超えるセラピスト集団ができました。やりたい放題させてもらい、次は、地域住民の健康を守るリハビリへどっぷり。出雲市からの委託で各地域に「通いの場」を立ち上げました。これは3か月毎週1回支援に行き、その後、自立していってもらうという事業です。今や私もその中に混じっていくお年頃ですが、まだまだ現役でいるため、また、今後も心身ともに元気であるための土台作りと思い、「通いの場」の継続支援も頑張っています。職場の理解もなければなかなかできないことなので本当にありがたいです。積極的なリハビリ治療から地域の中で

生かせるリハビリへの移行ですが、一貫した「思い」は、何か役に立ちたい、でした。言葉にすると青臭くて恥ずかしいのですが、この年までこの仕事が続けられた原点かな。若い頃は、先輩達に助けられ、年が行けば、後輩達に支えられ、本当に人に恵まれた職場でした。まるでもう終わりのような感じですが、まだまだ終われません。余談ですが、自分の元気を維持するため、若い頃からバレーボール(硬いボールですよ)、50歳代でマラソン、60歳代で登山を始め、今も続けています。県外のバレーボール大会遠征で最高年齢は88歳の方だったので、私も目指したいと思っています。富士山登山はまだ足が動くうちと思い、一昨年登頂。ホノルルフルマラソンも死ぬまでに達成したいという気持ちが強くなり、思い切って去年12月に挑戦し、完走できました。年取ってからのほうがチャレンジできることが多かったような気がします。仕事も、趣味もまだバリバリで頑張りたいです。

登録理学療法士
更新
ポイント

コッコッ
学ぼう!

登録理学療法士の更新ポイントの取得方法の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます。登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、以下の方法からチャレンジしてみてください。

〈紙冊子を閲覧している場合〉

会員専用アプリでQRコードを読み取ってください。申込期限は「6月19日」です。

〈QRコード読取ができない場合〉(WEB上で閲覧している場合など)

マイページから、セミナー番号で検索してください。(セミナー番号:152638)、申込期限は「6月18日」です。

※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。



問題解答 ☒

カリキュラムコード

121 小児の疾患

解答期限は6月19日まで

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>

コッコッ学ぼう!登録理学療法士更新ポイントに関するお問合せは、本会ホームページFAQからお願いいたします。



生涯現役



森之宮病院

紀伊 克昌 (きい かつまさ) さん

1942年生まれ。1967年に行岡保健衛生学園日本医学技術学校を卒業。欧州等での研修を経て帰国後、大阪聖母整肢園、ボバース記念病院にて管理職を歴任。その傍ら、大阪府理学療法士会会長、日本理学療法士協会理事・副会長などの要職を務めた。管理職退任後は後進の育成に注力。現在はボバース記念病院、森之宮病院、大阪発達総合療育センターにて職員教育に従事している。



本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへのメッセージを募集しております。
お問合せ先: JPTA NEWS担当

news@japanpt.or.jp

患者さんと真摯に向き合う姿勢を次世代の糧に

養成校卒業後、欧州等での研修を経て帰国し、大阪聖母整肢園での勤務、ボバース記念病院での部長・副院長職を務め上げました。管理職を退いた現在のセカンドキャリアとしては、後進育成のため、ボバース記念病院や森之宮病院、大阪発達総合療育センターにて職員教育を中心に活動しています。

今年で84歳という年齢から講義中心と思われがちですが、私の主戦場は今も臨床の場にあります。そこでは技術指導に留まらず、セラピストとして患者さんの可能性を信じ、真摯に向き合う「姿勢」を伝えることを大切にしています。80歳を超えてなお臨床に立ち続けられるのは、ひとえに長年連れ添った妻の支えと、臨床に対する私自身の情熱があったからこそだと確信しています。時には身体が思うよう

に動かないこともあります。氣力を振り絞り、日々現場に向き合っています。

経験豊富な会員の皆さんには、ぜひ積極的に後進の育成に関わっていただきたいと願っています。各職場のシステム上の難しさは承知しておりますが、教育制度が変化した今、卒後教育としての臨床指導の重要性はかつてないほど高まっています。

また、若い世代の皆さんには、ぜひ早いうちに外の世界へ目を向け、研鑽を積むことをお勧めします。年齢を重ねれば、職責や家庭の事情も増えていくものです。柔軟な若いうちに積み上げた経験こそが、将来の皆さんを支える揺るぎない糧となるはずです。

登録理学療法士
更新
ポイント

コツコツ
学ぼう!

登録理学療法士の更新ポイントの取得方法の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます。登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、以下の方法からチャレンジしてみてください。

〈紙冊子を閲覧している場合〉

会員専用アプリでQRコードを読み取ってください。申込期限は「8月19日」です。

〈QRコード読取ができない場合〉(WEB上で閲覧している場合など)

マイページから、セミナー番号で検索してください。(セミナー番号:152853)、申込期限は「8月18日」です。

※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。



問題解答 ☒

カリキュラムコード

71 感覚障害

解答期限は8月19日まで

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>

コツコツ学ぼう!登録理学療法士更新ポイントに関するお問合せは、本会ホームページFAQからお願いいたします。